

信 州 大 学

# 総合健康安全センター一年報

平成28年度

信州大学総合健康安全センター



# 目 次

・ はじめに	1
・ 総合健康安全センター組織	2
・ 平成28年度総合健康安全センター年間事業・業務等実施状況	3
I 健康管理	
1. 健康診断	
1) 健康診断の実施	4
2) 健康診断事後措置・保健指導	6
2. 健康保持増進対策	
1) 禁煙教室	6
2) 健康増進教室	6
3. メンタルヘルス	
1) 休学・不登校等の学生対応, 休職教職員対応	7
2) メンタルヘルス対策	10
4. 過重労働による健康障害防止対策	12
5. 診療・応急措置	12
6. 感染症対策	13
7. 健康教育	
1) 健康科学・理論と実践	13
2) メンタルヘルスに関する教育	14
3) 一次救命講習	16
II 安全衛生	
1. 総括管理	
1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価	16
2) 学内の実態調査と情報の更新	17
3) 安全衛生管理体制の構築	17
4) 安全衛生委員会及び学生委員会	18
5) ネットワーク構築	18
6) 緊急事態への対応	18
7) 環境活動との連携	19
8) 化学物質リスクアセスメントの実施	19
2. 作業環境管理	
1) 職場巡視	19
2) 作業環境測定	20
3) 薬品管理システム	20
4) ハザードマップの作成	20
3. 作業管理	
1) 学内の実態調査	20
2) 実態の即した効果的な職場巡視の計画・実施	21
3) 日常の自主的管理の支援	21

4) 産業保健スタッフによる研究室の支援	2 1
4. 健康管理	
1) 過重労働による健康障害防止対策	2 2
2) 喫煙対策	2 2
3) ストレスチェック制度	2 2
5. 安全衛生教育	
1) 産業保健スタッフの技能向上	2 2
2) 安全教育, 健康教育	2 3
<資料編>	
資料1 学生定期健康診断結果	2 4
資料2 学生への生活習慣・自覚症状に関する調査	3 3
資料3 学生定期健康診断精検結果	4 2
資料4 平成27年度学生, 院生 留年・休学・退学実態調査結果	4 3
資料5 施設利用状況	5 2

## はじめに

平成28年度信州大学総合健康安全センター年報をお届けします。

平成29年3月に川茂幸センター長が定年退職されました。川先生は平成18年にセンター長に就任されて以降の10年間、健康安全センターと人事課健康安全室を統合した総合健康安全センターの発足、全キャンパスに常勤のカウンセラーを配置するなど体制の充実にご尽力されたほか、大学構内全面禁煙の実施を主導されました。川先生の長年のご活躍に敬意を表しますと共に、これからも名誉教授、特任教授として私共に引き続きご助言いただける事に感謝申し上げます。

川先生の後任として、私が本年4月に信州大学医学部附属病院卒後臨床研修センターから異動してまいりました。よろしくお願い申し上げます。

平成28年度は総合健康安全センターにとって3つの新たな取り組みが始まりました。ひとつめは、4月1日からの大学構内全面禁煙の実施です。教育現場での全面禁煙は世界標準の取り組みではありますが、未だに実施出来ずにいる大学もあります。そのなかで、信州大学で全面禁煙が実施出来たのは、学長はじめ役員の方、各学部の先生方、事務部門の全面的な協力があった事です。ご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。しかしながら、ずいぶん減少してきているものの未だに構内の数カ所での喫煙がみられます。それだけでなく、松本市、長野市、上田市、南箕輪村の条例で禁止されている路上や河川敷での吸い殻のポイ捨て、歩行喫煙が続いており、周辺住民の方々からお叱りを受けております。今後、大学周辺を含めた禁煙の推進、喫煙者に対する禁煙支援、受動喫煙の撲滅を目指した各キャンパスでの取り組みを、より一層強化していきたいと思っております。

次にストレスチェックの施行です。初回でもあり、十分に必要性、WEBを通じた記入方法を職員の皆様に周知することができず、実施者が半数程度に留まってしまいました。今後、より入力しやすくなど運営も見直し、職場環境の改善にもつなげて行きたいと思っております。

化学物質リスクアセスメントも28年4月から実施されました。導入時多少の混乱はあったようですが、一年間で順調に定着し、職員の安全管理だけでなく、学生の安全教育にも役立っているようです。

そのほか、学生・教職員の健康管理についても健診、巡視など日常業務を通じて取り組みました。ジカ熱、デング熱、麻疹などの流行拡大が懸念されましたが、信州大学として取り組まなければいけない流行はありませんでした。しかし、これらの感染機会が今後増大する可能性は高く、インフルエンザを含めて感染予防の啓蒙には引き続き取り組んで行かねばなりません。

総合健康安全センターの活動は、学生・教職員の皆様の協力なくしては成り立ちません。引き続き、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成29年7月

信州大学総合健康安全センター  
センター長 森田 洋

<総合健康安全センター組織>

平成29年7月1日現在

センター長 森田 洋

教員

教授 森田 洋 (医師 (内科))  
講師 金子 稔 (医師 (精神科))  
講師 内田満夫 (医師 (産業医))  
助教 山崎 勇 (臨床心理士)

看護職

松本キャンパス

藤村智子  
林 弘子  
宮澤広恵  
大池美有

教育学部

児玉邦代

工学部

正村秀子

農学部

春日奈美

繊維学部

渡邊里菜

カウンセラー

榛葉清香 (松本キャンパス)  
紺野美保子 (松本キャンパス)  
大場美奈 (教育学部) (産休中)  
野村華子 (工学部)  
下平憲子 (農学部)  
山岡俊英 (繊維学部)  
浜石千賀子 (松本キャンパス非常勤)  
飯田良弘 (教育学部 非常勤)  
宮崎恵美子 (教育学部 非常勤)

事務室

小林 輝 (副課長・室長)  
犬浦恭子 (主査)  
斉京正和  
渡辺洋子

学校医 (非常勤)

松本キャンパス

内科 藤本圭作  
内科 伊藤哲也  
整形外科 齋藤直人  
精神科 田名部はるか  
皮膚科 関 智子  
婦人科 内川順子

教育学部

内科 佐藤俊夫  
精神科 竹内博人  
外科 桑原宣彦

工学部

内科 武田 毅  
" 仁科 久  
" 小島貴彦  
耳鼻科 谷内山 仁  
精神科 中澤友昭

農学部

内科 池上 泰  
精神科 武藤 隆

繊維学部

内科 森 浩二  
精神科 遠藤謙二

産業医

松本キャンパス事業場 塚原照臣  
医学部附属病院事業場 金井信一郎  
長野(教育)キャンパス事業場 城下 智  
長野附属学校事業場 吉村康夫  
長野(工学)キャンパス事業場 森田 洋  
伊那キャンパス事業場 佐藤吉彦  
上田キャンパス事業場 内田満夫



# I 健康管理

心身の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

## 1. 健康診断

### 1) 健康診断の実施

教職員、学生の健康状態を把握し、健康障害の防止、健康増進を図る。

#### (1) 教職員定期健康診断の検査項目

##### ① 法定項目

内科診察、身長、体重、視力及び聴力（1,000ヘルツ及び4,000ヘルツの音に係る聴力）、胸部エックス線検査、血圧の測定、貧血検査（赤血球数、血色素量）、肝機能検査（GOT、GPT、 $\gamma$ -GTP）、血中脂質検査（LDL-C、HDL-C、中性脂肪）、血糖検査（ヘモグロビンA1c）、尿検査（尿中の糖及び蛋白）、腹囲の測定、心電図検査

##### ② 法定外項目

貧血及び造血器疾患検査（ヘマトクリット、白血球数、血小板、血清鉄）、消化器疾患検査（ペプシノーゲン、ピロリ菌抗体）、ウイルス性肝炎検査（HBs-Ag（定性）及びHCV-Ab（定性））、膵臓疾患検査（アミラーゼ及びCA19-9）腎疾患検査（クレアチニン）、高尿酸血症（尿酸値）、胃検診、前立腺がん検査（PSA）、卵巣がん検査（CA125）及び大腸がん検査（便潜血）

平成28年度における教職員定期健康診断は人間ドック等の受診者を含め、定期健康診断の予定者はほぼ受診した。また、法定外の健診項目を定期健康診断時に受診できる機会を設け、教職員の自主的な健康管理に役立てることができた。

#### (2) 学生の健康診断について

学校保健安全法に基づき、身長・体重測定、視力測定、聴力検査（会話域）、血圧測定、尿検査、胸部X線検査、内科診察を実施した。**（資料1）**

松本キャンパスでは、健康診断時に学生の身体的・精神的な自覚症状傾向を把握するために「問診票」を作成し実施した。併せて、本学学生の生活習慣についてのアンケートも実施した。**（資料2）**

また、1年生に対し入学時に「新入生健康状態調査票」を提出してもらい、健康状態の把握に努め希望のある学生には健康相談を行った。

##### ① 生活習慣 **（資料2 生活習慣）**

・喫煙習慣は、学年が上がるに従い喫煙率は上昇するが、毎日喫煙する学生は



全体の5%程度である。過去5年間の喫煙率をみると年々減少してきていて、3%になってきている。また、一日の本数は10本以下の学生が半数を占めている。学部別では、医学部・保健学科は学年が上がっても喫煙しない学生が90%近くいることが分かった。

- ・ 飲酒習慣は、毎日飲酒すると答えた学生はほとんどいなかったが、2年生で時々飲酒をする学生の割合は25%を超え、3年生に75%となった。
- ・ 運動習慣は、学年を通してその割合に著しい差は認めず、時々している学生が60%前後、毎日している学生は10%前後だった。男女別にみると、女子の方が運動をしない人の割合が多かった。
- ・ 朝食習慣は、毎日食べている学生は1年生では80%を超えていたが、学年が上がるに従いその割合は低下し、3年生以降では40%前後になった。また、朝食をとらない学生は1年生ではほとんど認めなかったが、学年が上がるに従いその割合は増加しており、男子学生に多い傾向がある。

## ② 自覚症状（資料2 自覚症状）

- ・ 自覚症状は、全体集計では肩こり（18.2%）、めまい立ちくらみ（16.2%）など、身体的愁訴が上位を占めていた。男子学生（2,535名）では、肩こり（12.4%）やめまい立ちくらみ（10.4%）に続いて、気疲れ（6.3%）、決断力の低下（5.6%）など、精神的愁訴が上位を占めた。また女子学生（1,544名）では、男子学生と比較すると有愁訴の割合が高く、肩こり（27.5%）、めまい立ちくらみ（25.4%）、気疲れ（11.4%）となっていた。また女子学生では頭痛（11.6%）や胃痛腹痛（8.7%）、下痢便秘（8.2%）などの身体的愁訴は男子学生に比べて多く、むくみ（8.6%）は男子学生の約8倍と高い割合を示していた。
- ・ 学部別に自覚症状を見ると、学部間において著しい差は認めなかった。肩こり・めまい立ちくらみが上位を占める中で、人文学部の男子学生は気疲れが2位、医学部医学科の男子学生は記憶力の低下が3位、院生男子学生は倦怠感が3位となっていた。

## ③ まとめ

- ・ 生活習慣は、入学した直後の1年生時と比較して、学年が上昇するに従い飲酒割合や朝食欠食などが増加することが分かった。この結果を元に、1年生は生活の自己管理ができるように指導すること、また上級生は生活習慣の悪化を抑制するような生活指導を行うことが必要と考えられた。また、喫煙習慣は、1年生ではほとんど喫煙者がいない。一旦喫煙を開始してしまうと辞めることが困難になるので、在学中に喫煙することのないように1年次の授業「健康科学・理論と実践」で啓蒙・指導していくことが必要と思われる。
- ・ 自覚症状は、傾向として全体的に「肩こり」「めまい・立ちくらみ」が上位を占めている。これは近年変わらない傾向にあり、学生の日常生活からみてパソコン・スマートフォンの使用や、運動不足などが関係しているのではない

かと考えられる。また、女子学生は例年、有愁訴率が高いことから、窓口対応などにおいてもより細やかな対応が必要であると思われる。今後はこれらの結果を元に、学生のニーズに応じていくことが必要である。

## 2) 健康診断事後措置・保健指導

健診結果の有効な活用を行うために事後措置を行う。

健康診断の結果、異常が認められた場合には、個別に診察、再検査、保健指導などの事後指導を実施した。**(資料3)**

## 2. 健康保持増進対策

禁煙対策をはじめ、健診結果に基づいた対策を行う。

### 1) 禁煙教室

平成15年度より21世紀を担う大学生を非喫煙者として社会に送り出すという「大学禁煙化プロジェクト」が始まり、総合健康安全センターでもこのプロジェクトに参加して、禁煙を希望する学生の支援を行ってきた。これは、奈良女子大学保健管理センターが文部科学省科学研究費の補助を受け大学の禁煙化に向けてサポートを提供するもので、禁煙を希望する学生に禁煙補助剤（シガノンCQ）を配布、インターネット禁煙マラソンによるメールでの支援を行った。また、定期的に来所してもらい禁煙状況を聞きながらのサポートも実施してきた。

平成28年度は、5月の世界禁煙デーに合わせて学生へ禁煙支援のお知らせメールを出した。また、春休み前も同様に行い1名の申込みがあった。参加理由としては、「就職前に禁煙したい」ということであったが禁煙には至らなかった。

職員に対しては、健康診断の際に喫煙者に対してお試し用に禁煙補助剤（シガノンCQ）の配布を行った。今年度から大学構内全面禁煙になったが、禁煙したいという学生・職員は少なかった。今後も禁煙支援のPRを行うとともに、喫煙場所等のマナーについても周知していく必要があると思われる。

### 2) 健康増進教室

総合健康安全センターでは、平成18年度より運動不足を感じている学生・教職員に対し、運動習慣の確保ならびに肥満予防を目指した運動プログラムを企画している。

平成25年度からは「自分の歩数・活動量を知り、気軽に参加し歩く習慣をつける」を目標に、オムロン社の活動量計とウェブサイト「ウェルネスリンク・わたしムーヴ」を用いた健康増進プログラムを実施している。

平成28年度もメールでの応募や職員健診での呼びかけで、46名（男性14名・女性

32名)が新たに参加し、現在活動計利用者は173名となり、611名が健康教室に参加している。

参加者からは、「活動量計の数値表示で活動目安や結果を確認でき、日々の実施につながった。」「健康教室に参加することが決意表明となり、教室が終わっても継続できた。」「運動や健康維持への意識が変わった。」「日々の生活を見直すことができ、自分の体に気を配るようになった。」「定期的に送られてくるセンターからのメールが励みになった。一人ではできなかつたと思う。」「身体測定の際にセンターや保健室の看護職と話すことができ楽しく続けられた。」「職場で一緒に始めた人と励ましあいながら取り組めたのが良かった。」「消費カロリーが表示されるので、食事も気をつけるようになった。」「面倒くさいと思っていた家事も活動量が増えるので積極的にできた。」などの意見が聞かれた。

また体調の変化としても「体重・体脂肪がじわりと減った、体が軽くなり活動がスムーズになった。」「肩こり・腰痛・膝痛・頭痛・冷え症・便秘・高血圧が改善している。」「筋力がつき姿勢が良くなった。」「気分が明るくなった。」「よく動くせいか寝つきがよくなり、ぐっすり眠れる。」「体力がつき、疲れにくくなった。階段昇降が楽になった。」などの効果が聞かれている。

センターでは定期的にワンポイントアドバイスをメールし、健康資料など配布することで顔を合わせる機会を作り参加者のモチベーション維持に努めた。

また健康診断で肥満傾向にある参加者もいたため、「100Kcalポケットブック」を利用し運動・食事の両面からのサポートを実施した。

計器が活動量計であるため、歩数だけでなく日常生活で使う消費カロリーを把握することで、それを消費すべく動くことの意識づけになっていると思われる。

残念ながらオムロンのウェブサイトが終了してしまうため、今後は新しい支援を考えていきたい。

### 3. メンタルヘルス

#### 1) 休学・不登校等の学生対応、休職教職員対応

休学・休職の情報収集と分析を行い対応する。教職員については、職帰復場支援プログラムの定着を図る。

#### (1) 留年、休学、退学調査と対応

##### ① 調査方法

「休学者・不登校学生の情報収集、分析及び指導方法等」については、平成17年11月8日開催の第46回学生委員会において、総合健康安全センターで実態を把握して学生委員会で指導方法等の検討をすることが了承されており、これに基づき学生の留年、休学、退学調査を行った。実際の調査内容は、学部学生については茨城大学から、大学院学生については東京工業大学からの依頼に基づき各学部及び

研究科に依頼して作成した平成27年度留年・休学・退学実態調査を、総合健康安全センター事務室でまとめたものである。

## ② 調査内容

平成27年度における学部学生、大学院生それぞれの留年、休学、退学について、留年は学部等ごとに留年者数、留年率の年度別変遷及び入試区分別データを、休学は学部等ごとに休学者数の年度別変遷、入学年度別、分類群（背景因子）別及び入試区分別データを、退学は学部等ごとに退学者数の年度別変遷、入学年度別、分類群（背景因子）別及び入試区分別データをまとめた。

また、このデータを各学部等に送付するとともに学生委員会で報告し、学部等において学生指導をする際の参考データとして利用されている。

以下にデータのうち平成20年度から28年度の年度別留年率、平成27年度の入学年度別休学、退学状況の調査について掲載する。**（資料4）**

### <学部学生編>

#### ① 留年について（学部生留年）

平成20年度から平成28年度の年度別留年率で各年度の5月1日現在の「入学年度別学生数調べ」の「最低年限超過」の欄に記載されている「いわゆる留年生」の数と全学生数に対する比率を％で表したものである。平成16年度からの経時的変化では、平成20年度までの留年率は毎年度減少傾向にあったが、21年度、22年度と増加し、23年度、24年は横ばいとなったが、25年度、26年度は減少となり、平成27年度はやや増加した後、平成28年度は大幅に減少した。

#### ② 休学について（学部生休学）

入学年度別の休学者は、海外留学を含めて留年生が72名と最も多く、次に入学4年目の平成24年度入学者（50名）、25年度入学者（27名）、26年度入学者（24名）、27年度入学者（9名）となっている。また、休学者186名に占める留年生72名の比率は38.7％（前年度38％）で、その休学率も13.64％（前年度13.8％）と継続して高い傾向にある。

#### ③ 退学について（学部生退学）

平成27年度における退学者は全体で140名（前年度126名・14名増）であった。

入学年度別の退学者を見ると留年生が63名で全体の45％を占めている（前年度52名（41％））。次いで平成25年度入学者（3年次生）が22名（15.7％）、24年度入学者20名（14.3％）などとなっている。また、退学者140名中110名（78.5％）が男子学生で、そのうちの51名（46.3％）（前年度126名中94名（75％））が留年生である。

また、在学者全体に対する退学率は1.54％であったが、留年生の退学率は11.93％と昨年同様高い傾向にある。

## <大学院学生編>

### ① 留年について

平成20年度から平成28年度の年度別留年率で各年度の5月1日現在の「入学年度別学生数調べ」の「最低年限超過」の欄に記載されている「いわゆる留年生」の数と全学生数に対する比率を%で表したものである。

#### ア 博士課程前期・修士（大学院生留年1）

21年度及び22年度は留年率が高く、23年度以降は減少し26年度に増加したが、27年度より減少している。研究科別にみると、人文の留年率が22、23、26年度に急激に増加している。経済社会は18年度以降留年率が高かったが23年度に大幅に減少し以降増減していたが、26年度以降は減少している。また、医学系については21年度以降小幅な増減をしていたが、28年度には大幅に減少した。

#### イ 博士課程後期・専門大学院・博士4年（大学院生留年2）

留年率の経時的変化では、留年率の高い工学系で21年度に35.9%と増加し、22年度以降は減少傾向にあったが25年度以降は増加の傾向にある。男女別の平均をみると19年度以降男子が女子を上回っていたが、25年度からは女子が男子を上回り、28年度も女子27.3%、男子19.8%と女子が男子を上回っている。

### ② 休学について

平成27年度の入学年度別の休学者は、

#### ア 博士課程前期・修士（大学院生休学1）

入学年度別の休学者数は、海外留学を含めて留年生が21名で休学者全体の56.8%を占めている。次いで26年度入学者が12名で休学者全体の32.4%を占めている。留年生の在学者総数に占める休学率は33.87%（前年度18.57%）と高くなっている。

#### イ 博士課程後期・専門大学院・博士4年（大学院生休学2）

入学年度別の休学者数は、留年生が51名と最も多く休学者56名に占める割合は91.1%となっており、留年生の休学率は在学者数の50.5%と高い。また、研究科別に休学者数をみると、医学系が24名と休学者全体の42.8%を占めている。

### ③ 退学について

平成27年度の入学年度退学者は、

#### ア 博士課程前期・修士（大学院退学1）

平成27年度における退学者は全体で37名（前年度44名、7名減）であったが、男子が34名（92%）と多い。また入学年度別・男女別に見ると、27年度男子16名と最も多く、次いで留年生男子15名の順である。また、女子は全体で3名（8%）で、26年度入学者1名、27年度入学者2名である。また、過去7年間の退学者数を見ると、23年度以降は減少傾向にある。

#### イ 博士課程後期・専門大学院・博士4年（大学院退学2）

平成27年度における退学者数は全体で54名（前年度56名）であったが、男子が38名（70%）と多い。また入学年度別・男女別に見ると、24年度男子留学生男子ともに14名最も多い。また、研究科別にみると、医学系が35名と休学者全体の約65%を占めている。なお、過去7年間の退学者数をみると22年度と23年度に急激な増減があった以外は、ほぼ横ばいの状況にある。

#### （2）信州大学職場復帰支援プログラムの実施

平成17年度に5つのステップからなる「信州大学職場復帰支援プログラム」を策定して大学規定に組み込み、系統的な復職支援を開始した。1ヵ月以上病気休業した後に復職する場合は、職場復帰支援プログラムを利用して、円滑な職場復帰の支援を行っている。平成28年度は、25名（新規と継続の合計）が支援プログラムの対象となった。本人のほか、上司、人事、家族、主治医、学内医療職等との面談による対応は102件であった（延べ件数）。1ヵ月以上の療養を要する診断書が提出されると、職場等から総合健康安全センターに連絡が入り、復帰支援プログラムの第1ステップに則り病気休暇当初からの支援を開始している。このことは、原因は何か、職場に関連した問題が病状に影響を与えていないか否か、病気休暇早期の段階で鑑別することを可能とする。もしも職場に関連した問題が病状に影響を与えている場合には、良質の自宅療養、早期の疾病の改善の実現のために、できる限り早急に対応することとしている。その場合、本人面談のほか、主治医からの情報提供、上司、人事部門、家族等と連携し、病気休暇が長期化しないように努めている。病気休暇、病気休職が長期化しないためには、第1ステップにおける病気休暇開始時における面談が重要であると考えている。

復帰支援プログラムの派生効果であると考えられるが、病休に入る前に本人あるいは職場上司、人事部門から相談を受けるケースも増えてきている。このことは復職支援プログラムにおける当センターの医療職の介入が、職場の就業状況や就業環境の調整を行うものであるということが認知されて来たものと推察される。

#### 2) メンタルヘルス対策

カウンセリング体制を整備、充実しつつ、学生および教職員の心の健康管理を行う。学生相談センターと連携、協働して全学の精神保健状況の実態把握に努め、課題を把握し、対策を検討し、対応を図る。

学生のメンタルヘルス対策については、当センター精神科医およびカウンセラーが、学生相談センター所属のコーディネーターおよび工学部メンタルヘルスケアセンター所属のカウンセラー、各キャンパスの保健師・看護職、各学部学生相談員、担当教職員と連携、協働して取り組んでいる。全てのキャンパス・学部のカウンセラー

が常駐するようになり、連携がより密にスムーズに行われるようになっている。教職員のメンタルヘルス対策については各部署担当の産業医を中心に対応している。

平成28年度は精神科医、カウンセラー合わせて全学で延べ4,498名の面談が行われた。

個別カウンセリングや心理検査、精神医学的対応のほか、学内外関係部署との連携も適宜行い、学生や教職員に対して最善の支援が行われるよう努めている。また、新入生全員に対して、メンタルヘルスチェックを入学時の段階で実施し、必要がある者については呼び出し面接を実施している。

#### (1) 各学部相談室にかかる活動

全学部において、各学部学生相談室に担当カウンセラーと保健師・看護職が構成メンバーに加わり、学部の相談委員や教職員と協働連携をはかりながら相談室の運営に携わっている。具体的には、相談活動に関するコンサルテーション、相談室主催の企画に関する助言・提案、学生対応の指針作成、チューター面談の補助、FD・SD、支援会議など各学部の特色やニーズに応じた活動を行っている。

#### (2) 教育学部附属学校園スクールカウンセリング

教育学部附属6校園（長野3校・松本3校園）を対象にスクールカウンセリングを行った。長野地区、松本地区それぞれ週1日を各校の実情にあわせて時間配分を行い対応した。児童生徒の個別カウンセリングや保護者との個別面談の他、児童生徒・園児の行動観察、教師とのコンサルテーション、チーム支援会議への出席などを行っている。また必要に応じて児童相談所、保健センター、医療機関など学外関係機関との連携も行い、児童生徒・園児へのよりよい支援体制の整備にも努めている。

#### (3) カウンセラー間の協働・連携

##### ・カウンセラーミーティング

カウンセラーの技術向上や情報共有のため、当センターや工学部、学生相談センター所属の臨床心理士が毎月集まり、ミーティングを行っている。ハイリスク事例の情報共有や対応の検討、発表者持ち回りの事例検討、各学部の状況報告などがその内容である。本会は日本臨床心理士資格認定協会が認める研修会として認定を受けている。

##### ・カウンセラーの集い

本学の常勤、非常勤カウンセラーと、学生相談センター所属のカウンセラー（臨床心理士）が集まり、情報交換や必要事項の検討を行った。

平成28年8月22日（月） 14:00～16:00

平成29年2月20日（月） 13:30～16:00

出席者：常勤カウンセラー，非常勤カウンセラー，学生相談コーディネーター，  
障害学生支援室長，総合健康安全センター講師，総合健康安全センター  
長

#### 4. 過重労働による健康障害防止対策

本学の過重労働による健康障害防止対策を実施する。

平成18年度に労働安全衛生法が改正され，過重労働問題に対してより一層の対策が必要となった。それを受けて総合健康安全センターでは平成18年6月「過重労働からの健康障害を防ぐための指針」を作成し教職員に対する過重労働対策に積極的に取り組んできている。

裁量労働制の教員は，毎月勤務時間記録書を提出し，裁量労働制以外の職員は勤務時間業務処理システムに入力する。裁量労働制の場合，1ヵ月の労働時間が，その月の勤務日数に8時間に乗じて得た数値に100時間を加算した時間を超え，かつ疲労の蓄積が認められ，本人の申出がある場合に面談を実施している。裁量労働制以外の場合，1ヵ月の時間外の労働時間が45時間を超え，かつ，疲労の蓄積が認められ，本人の申出がある場合に面談を実施している。また，半年毎に連続3回の過重労働（裁量労働制の教員で時間外労働が100時間超，裁量労働制以外の職員で時間外労働が60時間超）のあった教職員に対して通知を出し，健康状態の把握に努めている。

本人の申出がなくとも，健診の結果及び当センターへの受診や相談の状況及び職場からの意見を考慮し，面接指導を必要と判断する場合には，内科医や産業医により適宜面談を行っている。看護職の段階での連絡，確認，相談によってフォローアップされている事例も存在している。しかしこれらの面談に至る例は年間数件程度である。実際に産業医面談の申し出があった場合の症例を見ると，相談内容は必ずしも過重労働による蓄積疲労によるものとは限らない。むしろ，この面談の機会を利用して普段相談したいと考えていたことを相談される事例も存在した。

平成28年度以降も，過重労働による健康障害の防止を念頭に置き，労働災害の予防および現場の要望に応じた取り組みを継続する予定である。

#### 5. 診察・応急措置

病気や怪我の措置に当たる。

診察は，内科，精神科，外科，整形外科，耳鼻科，皮膚科，婦人科について，当センター医師，学校医が行い，日常業務は看護職が対応している。また，カウンセラーによる相談も実施している。（施設利用状況 学生・職員）**（資料5）**



## 6. 感染症対策

さまざまな感染症の発生に対して健康危機管理として対応を行っている。平成28年度は、本学における通常業務を超えて新たに対応すべき感染症は認めなかったため、特別な活動は行わなかった。

## 7. 健康教育

### 1) 健康科学・理論と実践

平成22年度までは「キャンパスライフと健康」として行ってきた保健体育の講義は、平成23年度から体育実技が取り入れられるようになり、「健康科学・理論と実践」として再再編成され、総合健康安全センターは、講義を「理論」として担当し、1年を通して開講されることになった。新入生全員を対象に健康増進、生活習慣病を防ぐ、メンタルヘルス、ライフスキルアップ、危険薬物に対する注意、性の健康について知識の習得を図る目的で、学期を前半、後半にわけて各クラス100人前後の20クラスの学生に対して、われわれは計7回の講義を行い、全学教育機構の体育担当教員が8回実技を行った。講義はカテゴリー④⑤⑦については医学部、理学部、共通教育の教員に協力を依頼し、それ以外については総合健康安全センターの教員（①川、②金子、⑥内田）と、カウンセラー（③）が担当した。

#### (1) 授業のねらい

健康科学・理論は、受講者が学生時代はもとより生涯に渡って心身の健康の維持増進について正しい認識と習慣を得ることを目的とする。

#### (2) 授業の概要

健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。こうした観点から、この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成した。

##### カテゴリー① イントロダクション、健康なキャンパスライフのために

本講義開設の主旨、概要、受講に関する注意事項を解説した。健康なキャンパスライフを過ごすためのフィジカルヘルス（肉体的な健康）概論を、以後の講義のイントロダクションとして提供した。

##### カテゴリー② メンタルヘルス概論

青年期は人生において最も心が激しく揺れ動く時期であり、誰でも心の健康を損なう可能性があるが、そのことを理解している者は少ない。心の健康を維持するために、学生が注意すべきことは何か、また、心の健康を害したときに、どのように対処すべきかについて、主として大学生によくみられる心の病気を取り上げて解説した。

### カテゴリー③ ライフスキルアップ

社会に適応していくために、大学においてもライフスキル（社会人基礎力）の向上を図ることが求められている。この授業では、対人コミュニケーションに焦点をあてた講義・演習を通して、ともに学び働くために必要な仲間との関係を構築・維持するためのコツを学ぶようにした。大学でも、さらに卒業後にも通用する対人コミュニケーションの体得へ向けた第一歩となることを期待している。

### カテゴリー④ 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防）

キャンパスライフのみならず生涯を通して健康的な生活を維持するためには、スポーツなどで積極的に健康増進に努めることも重要であるが、健康を損なう状況をいかに回避するか学ぶことも必要である。AIDS、性感染症は潜行しながらも若者の間で急速に拡大してきているが、その実態、予防方法についても理解するようにした。

### カテゴリー⑤ 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール）

成人の死因の大半を占める悪性腫瘍、脳血管障害、心筋梗塞などは、生活習慣病といわれる肥満、高血圧、糖尿病や生活習慣に起因する大量飲酒、喫煙が深く関係している。生涯にわたり健康を維持するためには、これらの生活習慣病を予防もしくは生活習慣に注意を払う必要があり、個々のテーマについて解説した。

### カテゴリー⑥ 薬物乱用を防ぐ

大麻等違法薬物が学生さん、若い人たちに蔓延してきている。興味本位で手を出してしまうことが多いが、依存状態となり、また入手するために高額なお金が必要となる。犯罪行為であることを自覚すべきである。また、法規制の網を逃れた脱法ハーブも同様の問題をはらんでいる。これらの危険性について理解するようにした。

### カテゴリー⑦ 性感染症予防、性の健康

先進諸国のなかで日本ではHIVなど性感染症に罹患する若者が増えている。クラミジア感染症は自覚症状が乏しいが、女性の不妊の要因となりうる。性感染症の概要、予防について解説した。妊娠、性被害など性の健康について解説した。性の健康についても正しい知識を習得し、また性被害に遭わないために知っておくこと、実践すべき事などを理解するようにした。

## 2) メンタルヘルスに関する教育

FD・SD等を通じて、学生相談担当教職員の技能向上を図る。また、学生、教職員が、セルフケア、ラインケアができるよう教育を行う。

FD・SD、学生向けガイダンス、ワークショップ等を下記の日時で行った。

## (1) FD・SD

### ・メンタルヘルス講演会

平成28年4月1日から障害者差別解消法が施行された。本学においても障害を抱える学生の修学支援に取り組むために平成27年度より障害学生支援室を立ち上げた。発達障害についての教職員の理解も進んできているが、改めて理解を深めるために東京大学学生相談ネットワーク本部准教授の渡邊慶一郎先生をお招きして講演会を実施した。

講演終了後は活発に質疑応答が行われ、寄せられた感想も有意義な講演であった、大変参考になったと好評であった。

演 題：発達障害学生に対する合理的配慮について

講 師：東京大学学生相談ネットワーク本部 精神保健支援室（室長）、コミュニケーション・サポートルーム（室長） 准教授 渡邊 慶一郎 先生

日 時：平成28年9月16日（金）14：30～16：00

場 所：旭会館3階 大会議室

### ・繊維学部FD講習会

平成29年1月27日 繊維学部FD講習会

「カウンセリング利用状況と近年の学生の傾向について」

講師：山岡カウンセラー

### ・農学部メンタルヘルス講演会

平成28年10月25日 農学部メンタルヘルス講演会

「私は一体何者か？ 正常それとも異常 ー臨床心理の立場から考えるー」

講師：多摩心理臨床研究室 専修大学名誉教授 乾吉佑先生

## (2) 新入生・在学生等ガイダンス

<松本キャンパス>

新入生ゼミナール「大学生活をはじめるとあたって ～こころの健康～」

平成28年4月19日 理学部、教育学部 下平カウンセラー

平成28年4月20日 経法学部 総合健康安全センター講師

平成28年4月21日 教育学部 榛葉カウンセラー

平成28年4月22日 教育学部 榛葉カウンセラー

教育学部 総合健康安全センター講師

平成28年4月26日 農学部 下平カウンセラー

平成28年5月11日 繊維学部 山岡カウンセラー

平成28年5月13日 繊維学部 山岡カウンセラー

平成28年5月17日 教育学部 大場カウンセラー

平成28年5月26日 教育学部 榛葉カウンセラー

<上田キャンパス>

平成28年4月 5日 繊維学部学年別ガイダンス (2～4年生、大学院生)

平成28年5月17日 繊維学部留学生ガイダンス

カウンセラー講話 山岡カウンセラー

内容：学生生活上のストレスと対処法、各種相談窓口の紹介

<教育キャンパス>

平成28年3月31日 教育学部学年別ガイダンス (3年・4年)

平成28年3月31日 教育実習Ⅰ・Ⅱガイダンス (3年・4年)

平成28年4月1日 教育学部学年別ガイダンス (2年)

平成28年4月8日 教育学研究科大学院ガイダンス

平成28年4月13日 教育実習Ⅰ事前指導

平成28年4月27日 第一回実習連絡会

平成28年7月13日 教育実習Ⅰ事前指導

平成28年11月30日 第二回実習連絡会

<伊那キャンパス>

平成28年4月1日 農学部学年別ガイダンス

3) 一次救命講習

AEDの設置に伴い、一次救命措置が行えるようにする。

平成23年度より従来松本キャンパスの学生及び教職員を対象としていたものを、医学部附属病院を除く全学の学生及び教職員を対象を拡大して、松本広域消防局丸の内消防署の指導のもと2回の講習会を開催しており、28年度は28名が受講し普通救命講習修了証が交付された。

## II 安全衛生

### 1. 総括管理

教職員と学生の安全衛生管理体制に関する基盤を確立する。

#### 1) 安全衛生に関する方針・目標・計画の策定と評価

学内の実態を反映させ、活動の方針・目標・計画を作成し、定期的に評価、見直しを行う。その中で、労働安全衛生マネジメントの導入を図る。

## (1) 安全衛生に関する基本方針

### 基本理念

信州大学は、本学の教職員・学生の安全と心身の健康を守り、快適で健全な就業・修学環境を確保するため、積極的かつ継続的に安全衛生活動と健康づくりに取り組みます。また、安全衛生に対する意識と環境マインドを併せもつ人材を育成し、地域社会及び国際社会に貢献することを目指します。

### 基本方針

- 教職員・学生のための健康維持・増進活動を積極的に支援します。
- 教職員・学生の健康安全を守り、良好に保持するため、教育研究環境の継続的な改善に努めます。
- 法令を遵守し、高い倫理観をもって、安全衛生活動を推進します。
- 豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めます。

## (2) 安全衛生活動の年間計画

全キャンパスの年間活動案について、信州大学安全衛生委員会に提示、これをもとにして各キャンパスでも年間計画が策定された。

## 2) 学内の実態調査と情報の更新

学内の実態調査及び把握を行うことで実態に見合った活動を計画する。実態調査は定期的に行い、更新する。

学内の実態については、日常の診療、健康相談、労働衛生相談、労働災害報告、過重労働面談、職場巡視結果等から、知ることができる。これらの実態把握から見られる傾向をもとに、組織または個人への安全面や衛生面に関する対応を行っている。組織的な対応が必要な場合は、安全衛生委員会、学生委員会及び学生相談委員会を通じて周知を行っている。

## 3) 安全衛生管理体制の構築

管理体制の構築と再点検、産業保健スタッフの養成と支援を行う。研究室単位の自主管理体制の支援を行う。

### (1) 産業医と衛生管理者の養成

法定の週1回の職場巡視に対応するため、法人化後平成22年度まで衛生管理者を養成し、現在は年1回衛生管理者・安全管理者に対する研修を実施している。

また、現在学内の産業医有資格者は合計20名に達している。

## (2) 産業医会議の開催

産業医会議は、本学の7事業場の嘱託産業医と当センターの医師が集まり、意見交換、情報共有を行う場である。本年度は半期に1回を目安に開催し、その期間の課題、過重労働対策、復帰支援状況、各事業場の安全衛生委員会の内容などについて意見交換、情報共有を行った。また新規の法改正やガイドライン策定があった場合、本会議においてその紹介と解説を行い、産業医全員で情報共有を行った。今後も引き続き産業医会議を実施し、各嘱託産業医の活動内容について報告すると共に、法人へ意見すべき事項がある場合には建設的な意見を提案し、その機能を果たして行く予定である。

## 4) 安全衛生委員会及び学生委員会

実態を確実に把握し、両委員会を通じて活動内容の審議を行う。

年3回、信州大学安全衛生委員会(全学)を開催し、安全衛生活動について審議、報告を行い、全学の安全衛生活動の方向性を定めた。また、各事業場は毎月安全衛生委員会を開催して、安全衛生計画の策定及び実施報告、定期健康診断報告、職場巡視及びその結果への対応、過重労働対策などの活動状況の報告・審議が行われた。当センターは、信州大学安全衛生委員会、松本キャンパス事業場安全衛生委員会の報告・審議事項の提案を行った。総合健康安全センター事務室は、安全衛生委員会における事務局として、報告・審議事項のとりまとめを行っているほか、全学的な対応が必要な事項については、各キャンパスの安全衛生担当窓口へ指示、連絡等を行った。

毎月開催される学生委員会にセンター長、総合健康安全センター事務室長が出席し、学生の健康管理、メンタルヘルス、留年・休学・退学実態調査結果への対応など審議・報告を行ってきた。

## 5) ネットワーク構築(HP, e-learnigの活用)

学内の安全衛生活動の支援のため、ネットワークを構築、活用を行う。

学内の安全衛生活動の支援のため、HPを活用し、学生、教職員へ情報発信を行ってきた。薬品管理システム、健診日程の掲示をはじめ各種のお知らせを行った。

## 6) 緊急事態への対応

学内の各種災害に備えるとともに、事態への対応を行う。

平成28年10月31日、松本キャンパスにおいて教職員及び学生による防災実務の習

得、災害時の情報収集・伝達の迅速化および防災意識の高揚を図るため防災訓練が行われた。総合健康安全センターとしては、避難訓練、災害対策組織設置訓練に参加するとともに、災害において傷病者が発生したと想定し、救助実務訓練を行った。

緊急事態への対応の一つとして、学生・教職員の学内でのケガや事故、感染症への対応がある。修学環境や就業環境に原因があると考えられるケガや事故の場合には、現地の視察等を行い、対応を検討している。

## 7) 環境活動との連携

安全衛生活動を通じて「環境マインドを持つ人材の養成」を行う。

本学は、信州大学環境方針を掲げ、「環境マインドを持つ人材の養成」を行っている。EMS事務局を中心に、内部監査員による内部監査が実施され、本学においては全学的に環境活動が展開されている。一方、安全衛生活動においても、職場環境について衛生管理者及び産業医等が巡視を通じてチェックを行い、改善が行われている。環境活動としての内部監査、安全衛生活動としての職場巡視は双方重なり合う部分もあり、整合性を取り、連携する必要性が時に指摘される。こうした中で、安全衛生の基本方針にある通り、豊かな環境マインドを醸成しつつ、安全衛生意識の向上に努めている。

## 8) 化学物質リスクアセスメントの実施

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年より化学物質のリスクアセスメントが義務化された。本学では、化学物質を取り扱う研究者を対象に、コントロールバンディング法によるリスクアセスメントを実施するよう依頼した。総合健康安全センターにリスクアセスメント方法を記載し、また必要に応じて学部を訪問して方法の説明を行った。各自で実施されたリスクアセスメントは、その件数のみ所属部局の安全衛生委員会において報告することとした。今後もリスクアセスメント活動を継続して化学物質による障害を予防し、また必要時にはその方法を改善していく予定である。

## 2. 作業環境管理

作業環境中の危険有害要因を取り除いて適正な作業環境を確保する。

### 1) 職場巡視

職場巡視を通じて、研究室の作業環境管理を適切なものにする。

定期の職場巡視については、衛生管理者を中心に実施された。それに合わせて産業医や安全管理者の職場巡視が実施された。職場巡視結果は、安全衛生委員会にて

報告され、職場環境の状況が周知されると共に職場環境の改善につながっている。臨時の職場巡視としては、学生や教職員の怪我や事故などが発生した場合に、現場の確認を行った。

## 2) 作業環境測定

労働安全衛生法施行令第21条に基づく作業環境測定を実施し、結果に基づいた対策を検討する。

作業環境測定は、各事業場において、その職場環境にある危険有害要因に沿って行われた。本学においては、主に電離放射線、有機溶剤、特化物について、作業環境測定が行われた。平成27年度に実施された作業環境測定のうち、問題のある測定結果はなかった。

## 3) 薬品管理システム

学内における化学物質使用量の正確な把握を行う。

学内における薬品使用量の把握は、薬品管理システムにより行われている。

総合健康安全センター事務室は、薬品管理システム運用専門部会の事務局を務め、全学における薬品管理システムの運用の管理を行っている。薬品管理システムに関する情報は、総合健康安全センターのホームページに掲載されており、利用率の向上に努めている。

## 4) ハザードマップの作成

学内の危険有害要因を化学物質と特定し、その対策を講じる。

ハザードマップの作成は、第1期中期目標・中期計画（平成16年4月1日～平成22年3月31日）において掲げられていた。平成19年度から化学物質を使用する学部においては、学部内の危険薬品所在箇所を記載したハザードマップを作成している。平成20年度からは、このハザードマップを建物ごとに掲示し、学生を含めた避難訓練に利用する学部もある。

## 3. 作業管理

作業内容や作業方法を把握し、安全衛生面において適切な作業が行えるようにする。

### 1) 学内の実態把握

研究室単位等の危険有害要因の把握を行う。

各研究室における危険有害要因は、学部、学科、講座、研究室の研究内容によっ



て非常に異なっている。これら危険有害要因の特定は、基本的にはその場で就業する教職員がその危険性を認識し、対応を図ることを原則としているが、職場巡視の中で産業保健スタッフが客観的に危険有害要因を把握し、改善を図ることにもなる。各事業場により異なるが、衛生管理者、安全管理者、産業医、安全衛生担当者等の産業保健スタッフが同行し、巡視を行っている。

## 2) 実態に即した効果的な職場巡視の計画・実施

実態把握を元にした職場巡視の実施。

職場巡視は、各事業場において、定期的には実施されている。学生と教職員が修学・就業する場である大学は、極めて広大な敷地であり、企業や工場における作業工程と異なり危険有害要因が一元管理されているわけではなく、各研究室の実験における作業管理には限界がある。また、危険有害要因と接点がある作業中（実験や研究中）にまさに巡視を計画することは現実的ではなく、産業保健スタッフによる巡視のみでは限界がある。そのため講座や研究室単位による自主的な作業管理が求められ、その中で産業保健スタッフは適切な作業管理のための助言を求められた場合に専門的な立場で問題解決に当たることが期待される。

## 3) 日常の自主的管理の支援

研究室単位等の自主的管理が促進するようチェックリストの作成と運用を行う。ヒヤリハットに関する情報の集約を行う。

職場巡視用のチェックリストは、各研究室の自主的な管理を促進させる点でも活用されることを期待している。ただし、特に理系の研究室では、使用している化学物質が非常に多岐にわたっていることもあり、チェックリストの作成事態が容易でなく、使用する化学物質に精通した各研究室の教員による安全衛生管理に委ねられているのが現実である。

ヒヤリハットは、ケガや事故を引き起こしそうになって、ヒヤリとしたり、ハットとしたりした情報を共有し、同様のことを繰り返さないようにする安全衛生活動の一つである。情報を集積し、情報をHPで公開し、重大災害を引き起こさないよう周知を行っている。ヒヤリハットの投書に基づき、巡視、委員会における報告・審議を行うことで改善を図った事例もあり、一定の成果を挙げている。

## 4) 産業保健スタッフによる研究室の支援

産業保健スタッフは、職場巡視等を通じて、研究室等の自主的な作業管理が促進されるように支援する。

職場巡視を通じて発見された問題箇所の改善について、巡視の際に検討も合わせて行っている。巡視によって顕在化した問題点の検討を行うことは、危険有害要因を認知につながり、研究室が自主的な管理を展開して行く上で、教育的な効果があるものと考えられる。したがって巡視の積み重ねは、重大災害の防止に効果があるものと考えられる。

#### 4. 健康管理

##### 1) 過重労働による健康障害防止対策

I. 健康管理の項目で述べた。

##### 2) 喫煙対策

信州大学は平成28年4月より敷地内全面禁煙となった。構内の禁煙は順守されており、逸脱した喫煙行為は認めていない。しかし門周囲など敷地境界における喫煙行為が散見され、その対策が現在課題となっている。全面禁煙化に伴う敷地境界域での喫煙は事前に想定されていたため、喫煙行為を行わないよう啓発するなど対策を講じていたが、引き続き継続的な注意喚起と大学全体の意識啓発が必要である。

##### 3) ストレスチェック制度

労働安全衛生法の改正に伴い、平成28年度よりストレスチェック制度が義務化された。本学においては、既存のWEBシステムを用いて、受検者が簡便に回答できるようなシステムを構築した。平成28年10月の全国労働衛生週間に合わせ、全学的にストレスチェックを施行した。しかし、初回の取り組みということもあり、回答割合は50%弱に留まり、本学教職員全員に周知が行き届いていなかったかもしれないという課題が残された。またストレスチェックの結果に基づく面談は極めて少なく数件程度であった。次回は本制度の周知徹底を図り、その回答割合の向上と、また面談につながるような制度に改善していく予定である。

#### 5. 安全衛生教育

安全衛生管理体制，作業環境管理，作業管理，健康管理について正しい知識を習得する。

##### 1) 産業保健スタッフの技能向上

衛生管理者・安全管理者，産業医，看護職の技能が向上するための講習会等を企画する。

衛生管理者・安全管理者を対象に安全衛生の水準向上を図るために、より快適な職場環境の実現と労働災害防止のための業務について講習，ワークショップを行い能力の向上を図っている。

## 2) 安全教育, 健康教育

学生, 教職員の研修会を実施し, 安全及び健康についての理解を深める。

### (1) 衛生管理者・安全管理者研修会

目 的 : 本研修は各事業場における安全衛生の水準向上を図り, 衛生管理者, 安全管理者に対し, より快適な職場環境の実現と労働災害防止のための業務について講習を行い能力の向上を図ることを目的とする。

日 時 : 平成28年12月2日 (金) 10:00~11:30

場 所 : 本部管理棟5階 第1会議室

受講対象者 : ・各事業場衛生管理者, 安全管理者  
・衛生管理者免許所有者 (任意参加)  
・教育学部附属学校園 養護教諭  
・各キャンパス保健師等

当日出席者 : 40名

内 容 : ストレスチェック制度の使い方

講 師 : 東京ガス 専属産業医  
西浦 千尋 先生

## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

## 共通教育

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文学部	167 人	167 人 (100.0 %)	167 人 (100.0 %)	167 人 (100.0 %)	167 人 (100.0 %)	156 人 (93.4 %)
経法学部	201 人	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	201 人 (100.0 %)	194 人 (96.5 %)
理学部	208 人	208 人 (100.0 %)	208 人 (100.0 %)	208 人 (100.0 %)	208 人 (100.0 %)	196 人 (94.2 %)
医学部	266 人	266 人 (100.0 %)	266 人 (100.0 %)	266 人 (100.0 %)	266 人 (100.0 %)	260 人 (97.7 %)
教育学部	250 人	250 人 (100.0 %)	250 人 (100.0 %)	250 人 (100.0 %)	250 人 (100.0 %)	248 人 (99.2 %)
工学部	510 人	509 人 (99.8 %)	510 人 (100.0 %)	510 人 (100.0 %)	510 人 (100.0 %)	498 人 (97.6 %)
農学部	179 人	179 人 (100.0 %)	179 人 (100.0 %)	179 人 (100.0 %)	179 人 (100.0 %)	174 人 (97.2 %)
繊維学部	290 人	290 人 (100.0 %)	290 人 (100.0 %)	290 人 (100.0 %)	290 人 (100.0 %)	278 人 (95.9 %)
計	2071 人	2070 人 (100.0 %)	2071 人 (100.0 %)	2071 人 (100.0 %)	2071 人 (100.0 %)	2004 人 (96.8 %)

対象者数は 5月1日現在

## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

### 人文学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	156 人	115 人 (73.7 %)	115 人 (73.7 %)	115 人 (73.7 %)	31 人 (19.9 %)	89 人 (57.1 %)
3年生	161 人	121 人 (75.2 %)	121 人 (75.2 %)	121 人 (75.2 %)	81 人 (50.3 %)	88 人 (54.7 %)
4年生	222 人	162 人 (73.0 %)	162 人 (73.0 %)	162 人 (73.0 %)	160 人 (72.1 %)	144 人 (64.9 %)
計	539 人	398 人 (73.8 %)	398 人 (73.8 %)	398 人 (73.8 %)	272 人 (50.5 %)	321 人 (59.6 %)

### 経法学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	193 人	141 人 (73.1 %)	141 人 (73.1 %)	141 人 (73.1 %)	77 人 (39.9 %)	96 人 (49.7 %)
3年生	216 人	164 人 (75.9 %)	164 人 (75.9 %)	164 人 (75.9 %)	109 人 (50.5 %)	116 人 (53.7 %)
4年生	255 人	194 人 (76.1 %)	194 人 (76.1 %)	194 人 (76.1 %)	191 人 (74.9 %)	183 人 (71.8 %)
計	664 人	499 人 (75.2 %)	499 人 (75.2 %)	499 人 (75.2 %)	377 人 (56.8 %)	395 人 (59.5 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生を含む

## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

### 理学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	206 人	192 人 (93.2 %)	192 人 (93.2 %)	192 人 (93.2 %)	135 人 (65.5 %)	155 人 (75.2 %)
3年生	205 人	173 人 (84.4 %)	173 人 (84.4 %)	173 人 (84.4 %)	138 人 (67.3 %)	144 人 (70.2 %)
4年生	239 人	196 人 (82.0 %)	196 人 (82.0 %)	196 人 (82.0 %)	192 人 (80.3 %)	168 人 (70.3 %)
計	650 人	561 人 (86.3 %)	561 人 (86.3 %)	561 人 (86.3 %)	465 人 (71.5 %)	467 人 (71.8 %)

### 教育学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	286 人	281 人 (98.3 %)	280 人 (97.9 %)	270 人 (94.4 %)	278 人 (97.2 %)	263 人 (92.0 %)
3年生	285 人	280 人 (98.2 %)	279 人 (97.9 %)	276 人 (96.8 %)	281 人 (98.6 %)	275 人 (96.5 %)
4年生	316 人	302 人 (95.6 %)	302 人 (95.6 %)	295 人 (93.4 %)	301 人 (95.3 %)	286 人 (90.5 %)
計	887 人	863 人 (97.3 %)	861 人 (97.1 %)	841 人 (94.8 %)	860 人 (97.0 %)	824 人 (92.9 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生を含む

## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

### 工学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	499 人	480 人 (96.2 %)	481 人 (96.4 %)	476 人 (95.4 %)	99 人 (19.8 %)	447 人 (89.6 %)
3年生	520 人	493 人 (94.8 %)	494 人 (95.0 %)	491 人 (94.4 %)	491 人 (94.4 %)	469 人 (90.2 %)
4年生	603 人	518 人 (85.9 %)	531 人 (88.1 %)	501 人 (83.1 %)	534 人 (88.6 %)	522 人 (86.6 %)
計	1622 人	1491 人 (91.9 %)	1506 人 (92.8 %)	1468 人 (90.5 %)	1124 人 (69.3 %)	1438 人 (88.7 %)

### 農学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	181 人	177 人 (97.8 %)	177 人 (97.8 %)	176 人 (97.2 %)	8 人 (4.4 %)	175 人 (96.7 %)
3年生	187 人	184 人 (98.4 %)	184 人 (98.4 %)	182 人 (97.3 %)	153 人 (81.8 %)	184 人 (98.4 %)
4年生	209 人	204 人 (97.6 %)	204 人 (97.6 %)	204 人 (97.6 %)	201 人 (96.2 %)	203 人 (97.1 %)
計	577 人	565 人 (97.9 %)	565 人 (97.9 %)	562 人 (97.4 %)	362 人 (62.7 %)	562 人 (97.4 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

5年生以上は4年生に含む

## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

### 繊維学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	286 人	277 人 (96.9 %)	277 人 (96.9 %)	276 人 (96.5 %)	0 人 (0 %)	276 人 (96.5 %)
3年生	292 人	283 人 (96.9 %)	283 人 (96.9 %)	282 人 (96.6 %)	30 人 (10.3 %)	278 人 (95.2 %)
4年生	321 人	306 人 (95.3 %)	306 人 (95.3 %)	306 人 (95.3 %)	271 人 (84.4 %)	303 人 (94.4 %)
計	899 人	866 人 (96.3 %)	866 人 (96.3 %)	864 人 (96.1 %)	301 人 (33.5 %)	857 人 (95.3 %)

### 医学部

	対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
2年生	262 人	228 人 (87.0 %)	228 人 (87.0 %)	228 人 (87.0 %)	228 人 (87.0 %)	182 人 (69.5 %)
3年生	266 人	256 人 (96.2 %)	256 人 (96.2 %)	256 人 (96.2 %)	256 人 (96.2 %)	237 人 (89.1 %)
4年生	293 人	281 人 (95.9 %)	281 人 (95.9 %)	281 人 (95.9 %)	280 人 (95.6 %)	270 人 (92.2 %)
5年生	112 人	102 人 (91.1 %)	102 人 (91.1 %)	102 人 (91.1 %)	102 人 (91.1 %)	88 人 (78.6 %)
6年生	135 人	120 人 (88.9 %)	120 人 (88.9 %)	120 人 (88.9 %)	120 人 (88.9 %)	108 人 (80.0 %)
計	1068 人	987 人 (91.8 %)	987 人 (91.8 %)	987 人 (91.8 %)	986 人 (91.8 %)	885 人 (81.9 %)

対象者数は 5月1日現在

学年は入学年度

保健学科の5年生以上は4年生に含む

医学科の7年生以上は6年生に含む



## 2016年度 学生定期健康診断受診者数・受診率

### 大学院

		対象者	身体計測	血圧測定	内科診察	胸部X-P	尿検査
人文科学研究科		20 人	13 人 (65.0 %)	13 人 (65.0 %)	13 人 (65.0 %)	12 人 (60.0 %)	10 人 (50.0 %)
教育学研究科		81 人	73 人 (90.1 %)	73 人 (90.1 %)	70 人 (86.4 %)	72 人 (88.9 %)	70 人 (86.4 %)
経済・社会政策科学研究科		41 人	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
医学系研究科		71 人	35 人 (49.3 %)	35 人 (49.3 %)	35 人 (49.3 %)	33 人 (46.5 %)	32 人 (45.1 %)
総合理工学研究科	理学	128 人	110 人 (85.9 %)	110 人 (85.9 %)	110 人 (85.9 %)	97 人 (75.8 %)	98 人 (76.6 %)
	工学	465 人	428 人 (92.0 %)	436 人 (93.8 %)	411 人 (88.4 %)	435 人 (93.5 %)	429 人 (92.3 %)
	繊維学	401 人	381 人 (95.0 %)	381 人 (95.0 %)	381 人 (95.0 %)	186 人 (46.4 %)	378 人 (94.3 %)
	農学	105 人	98 人 (93.3 %)	98 人 (93.3 %)	98 人 (93.3 %)	96 人 (91.4 %)	97 人 (92.4 %)
	生命医工学	38 人	34 人 (89.5 %)	36 人 (94.7 %)	35 人 (92.1 %)	34 人 (89.5 %)	32 人 (84.2 %)
総合工学系研究科		170 人	88 人 (51.8 %)	89 人 (52.4 %)	87 人 (51.2 %)	68 人 (40.0 %)	85 人 (50.0 %)
法曹法務研究科		5 人	3 人 (60.0 %)	3 人 (60.0 %)	3 人 (60.0 %)	3 人 (60.0 %)	3 人 (60.0 %)
計		1525 人	1263 人 (82.8 %)	1274 人 (83.5 %)	1243 人 (81.5 %)	1036 人 (67.9 %)	1234 人 (80.9 %)

対象者数は 5月1日現在

## 学生の身体計測結果（全学生）

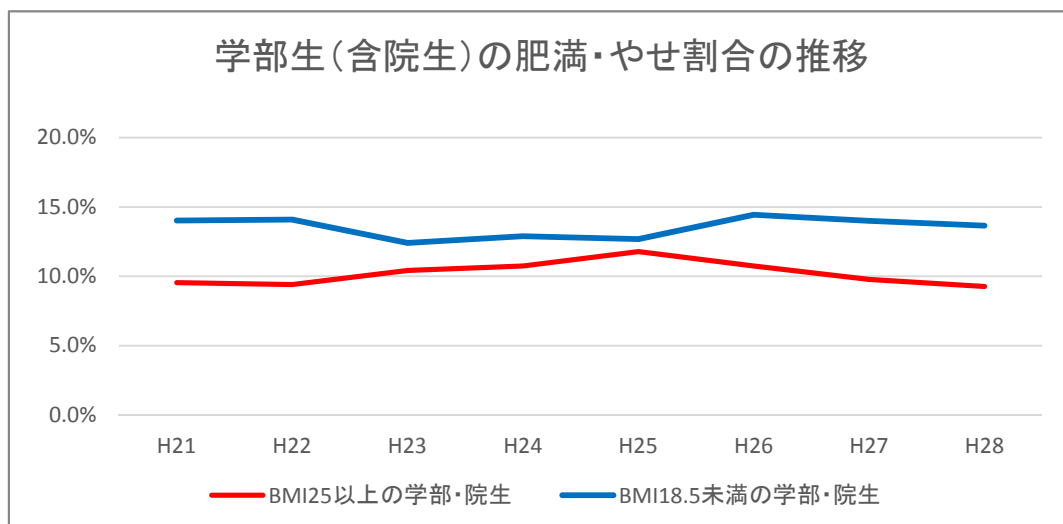
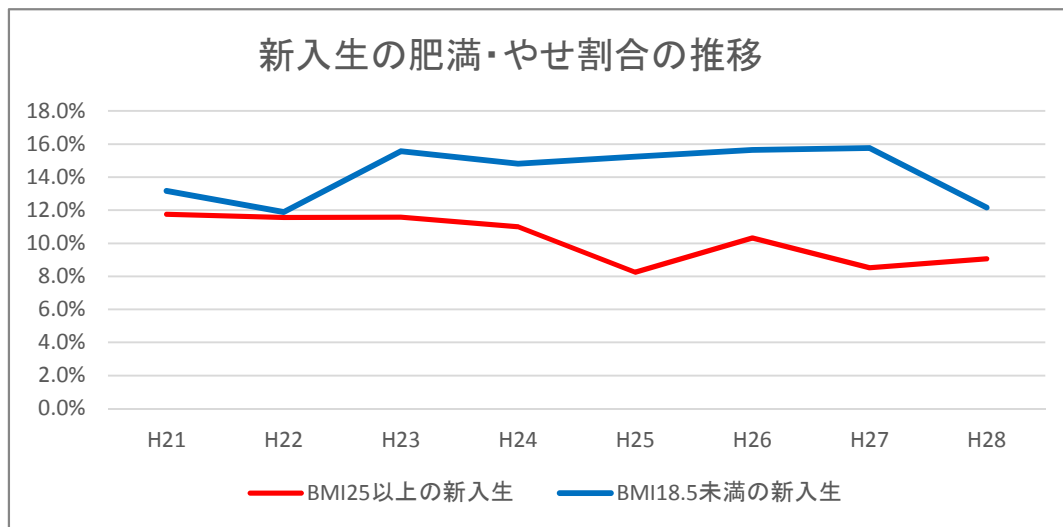
### 男子

年齢	人数	身長 (cm)	体重 (Kg)	BMI
18	964	171.3±5.8	62.9±9.2	21.4±2.8
19	1186	171.5±5.7	63.1±9.1	21.4±2.8
20	1215	171.4±5.8	63.1±9.8	21.5±3.1
21	1269	171.4±5.8	63.1±9.7	21.4±3.0
22	747	171.8±5.9	64.5±10.6	21.8±3.3
23	591	172.0±5.8	64.4±10.5	21.8±3.3
24	227	171.7±5.8	66.6±10.9	22.6±3.6
25以上	313	172.7±6.3	69.7±13.6	23.3±4.2
全体	6512	171.6±5.8	63.8±10.1	21.6±3.1

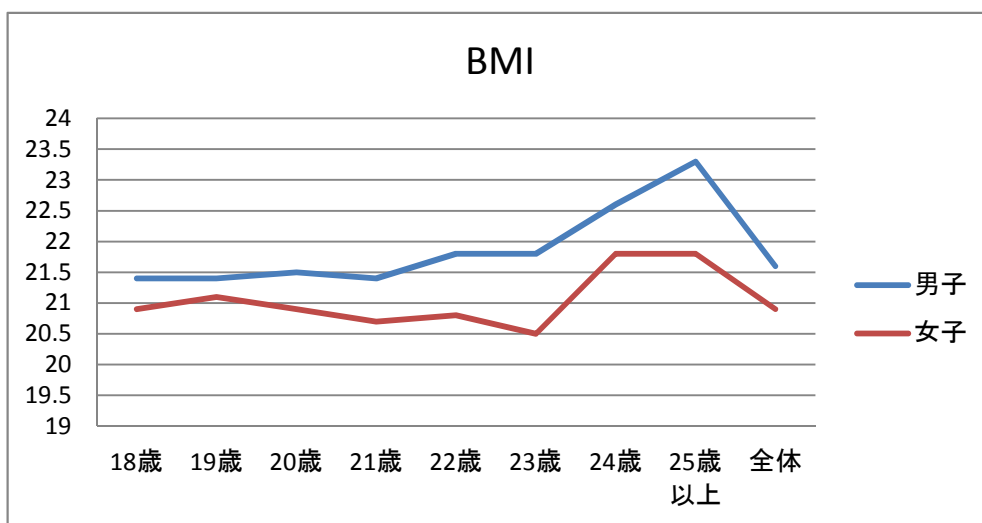
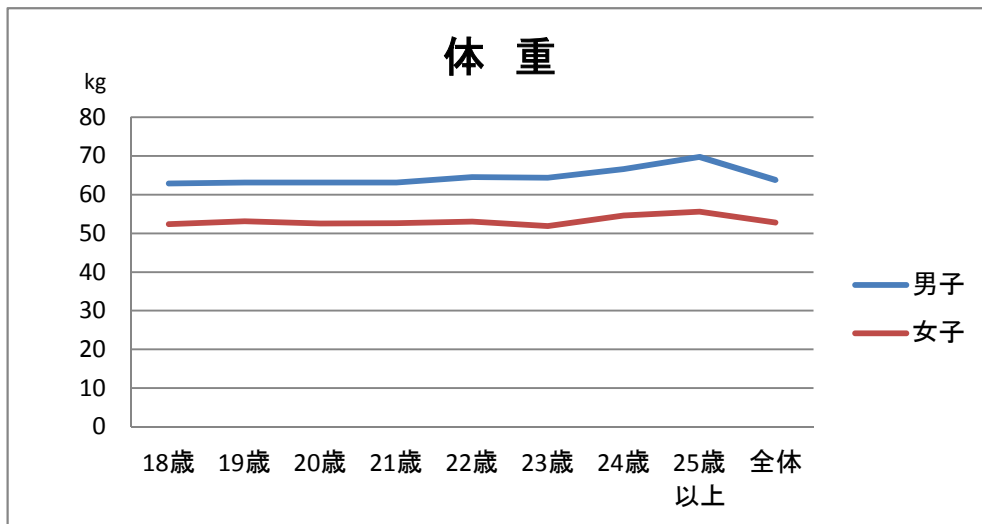
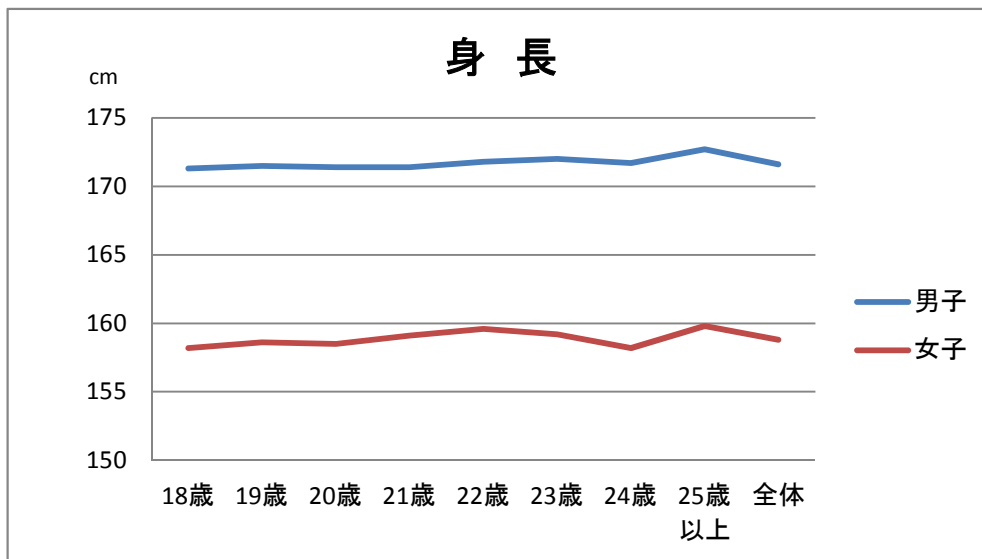
### 女子

年齢	人数	身長 (cm)	体重 (Kg)	BMI
18	606	158.2±5.3	52.4±7.2	20.9±2.5
19	657	158.6±5.1	53.1±6.6	21.1±2.4
20	658	158.5±5.2	52.5±7.1	20.9±2.6
21	687	159.1±5.4	52.6±7.0	20.7±2.3
22	283	159.6±5.4	53.0±8.0	20.8±3.0
23	150	159.2±5.8	51.9±7.4	20.5±2.6
24	50	158.2±4.4	54.6±8.9	21.8±3.3
25以上	96	159.8±6.5	55.6±9.2	21.8±3.5
全体	3187	158.8±5.3	52.8±7.2	20.9±2.6

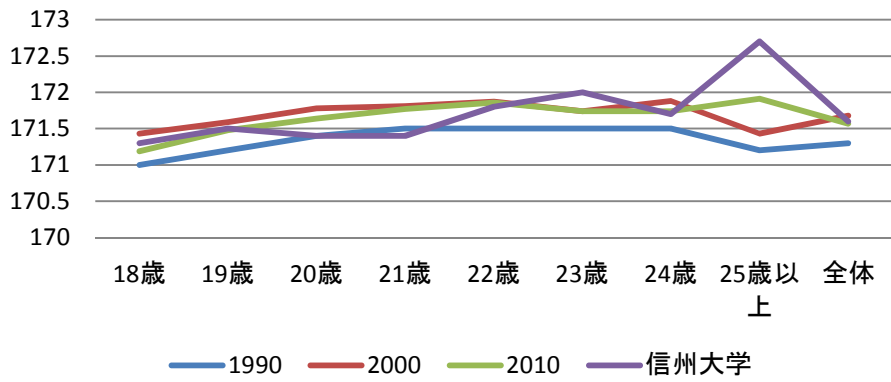
### 松本キャンパス



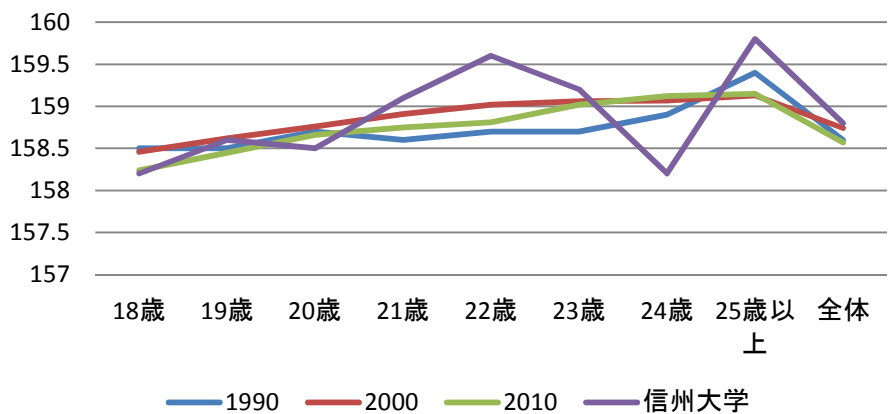
## 学生の身体計測結果(年齢別)



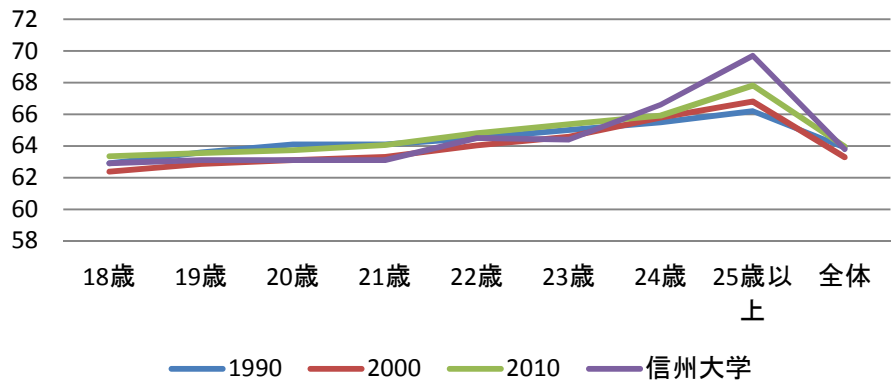
健康白書との身長比較(男子)



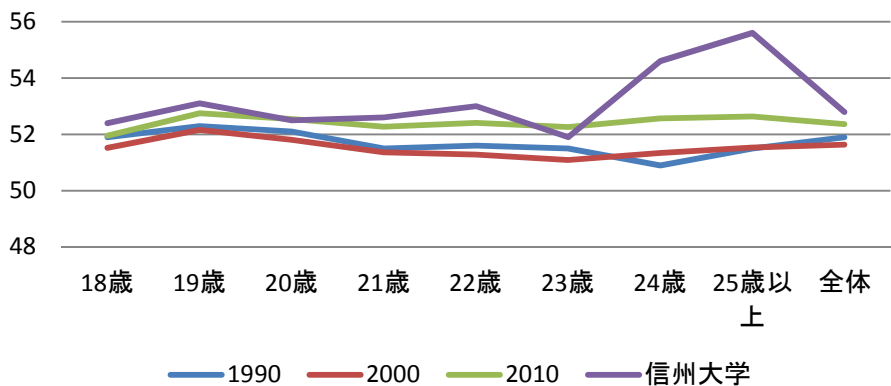
健康白書との身長比較(女子)



健康白書との体重比較(男子)

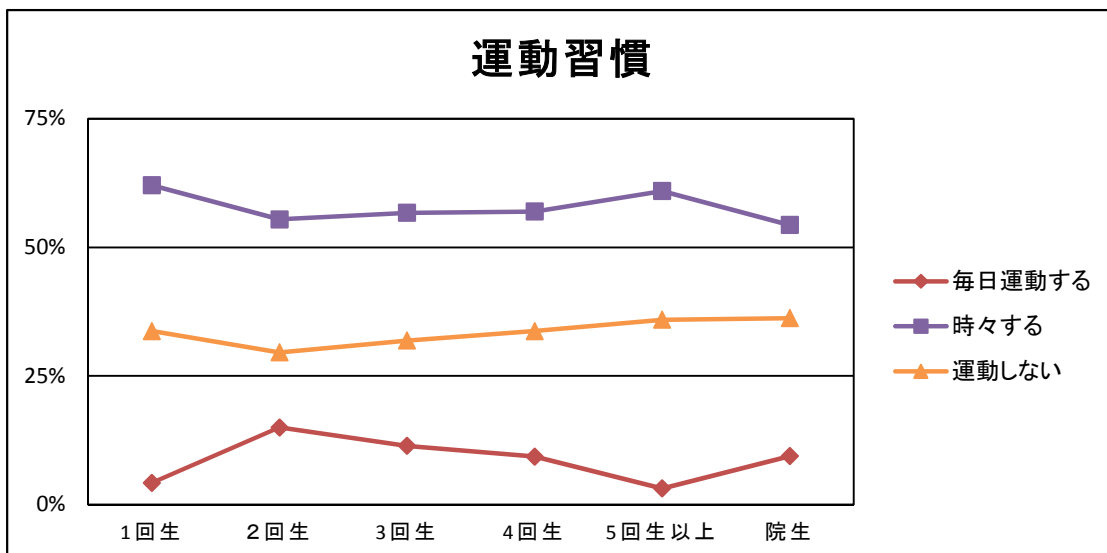
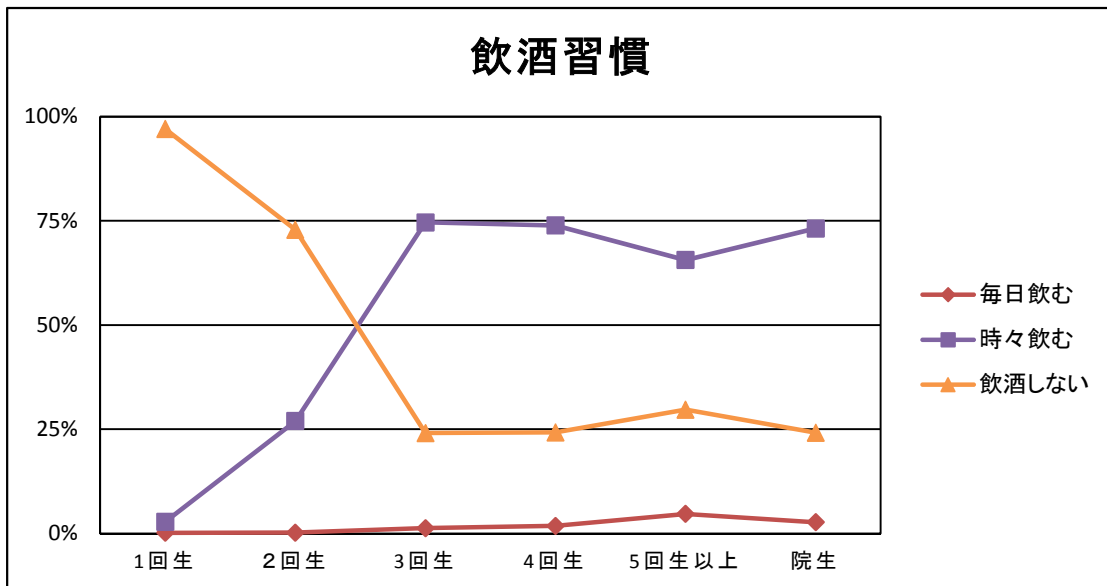
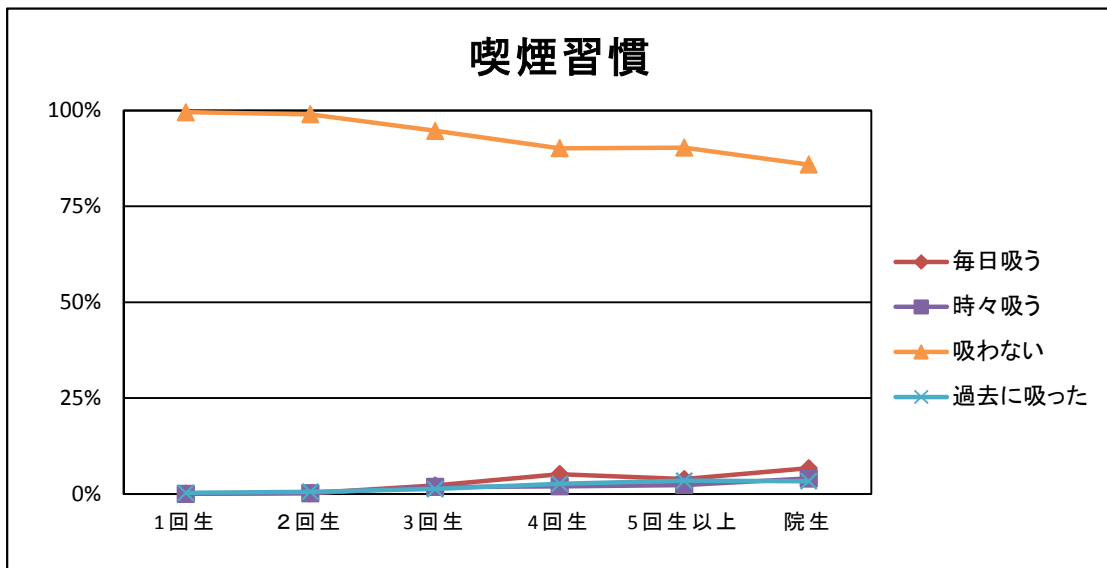


健康白書との体重比較(女子)

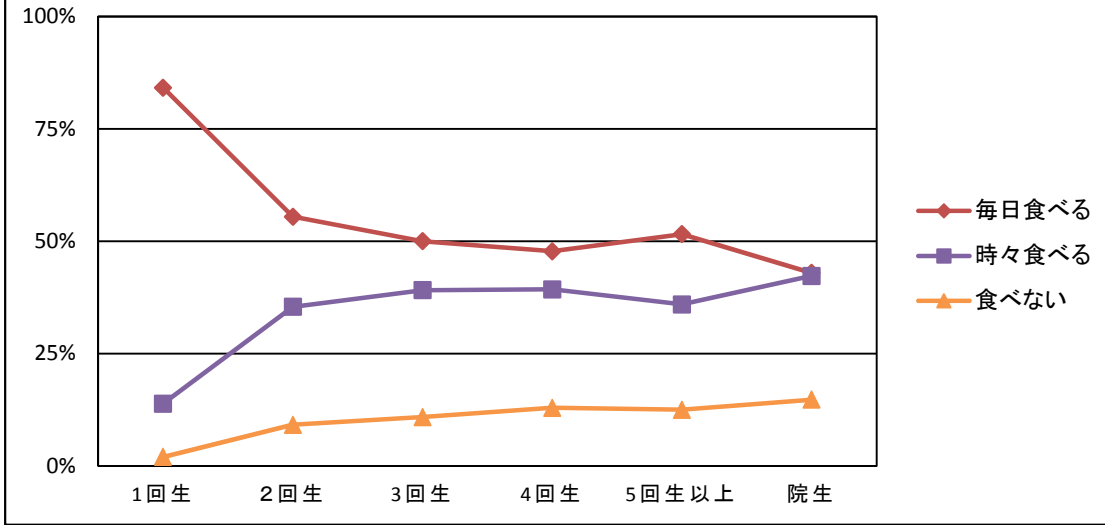




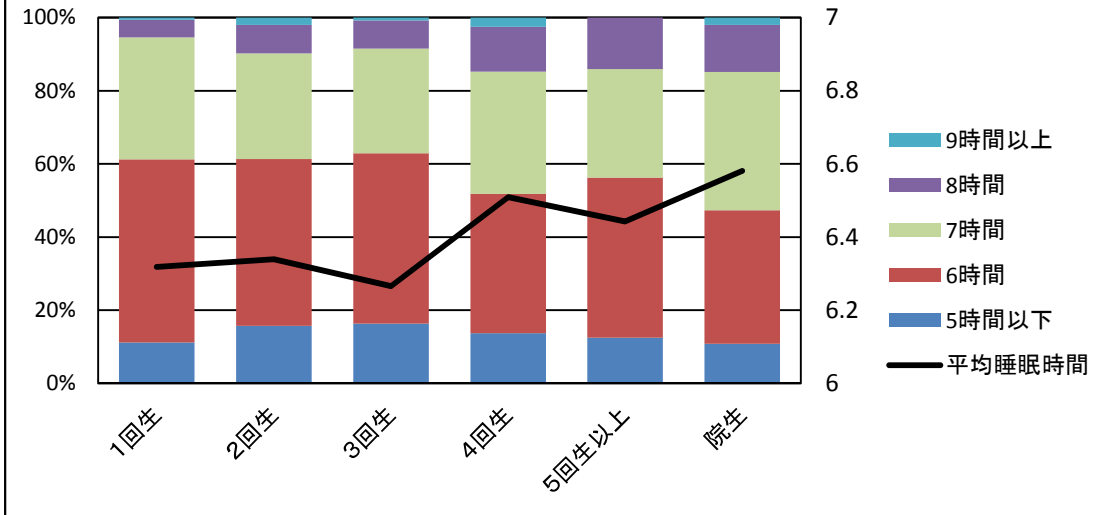
## ～ 生活習慣(松本) ～

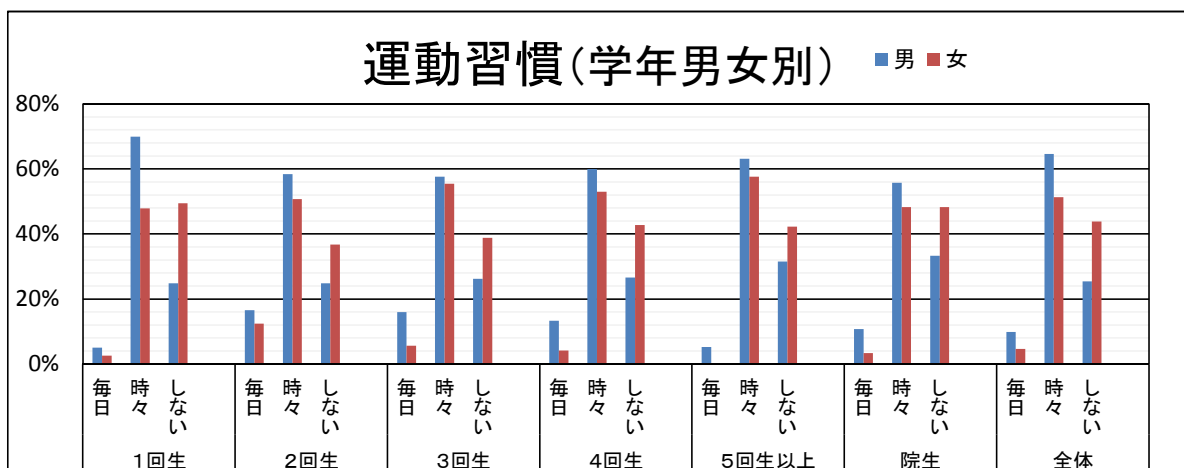
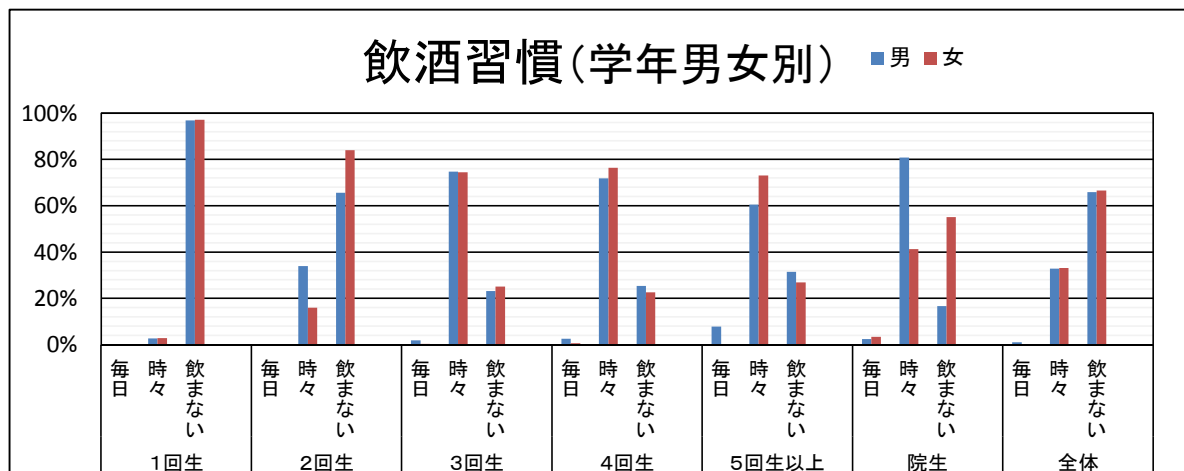
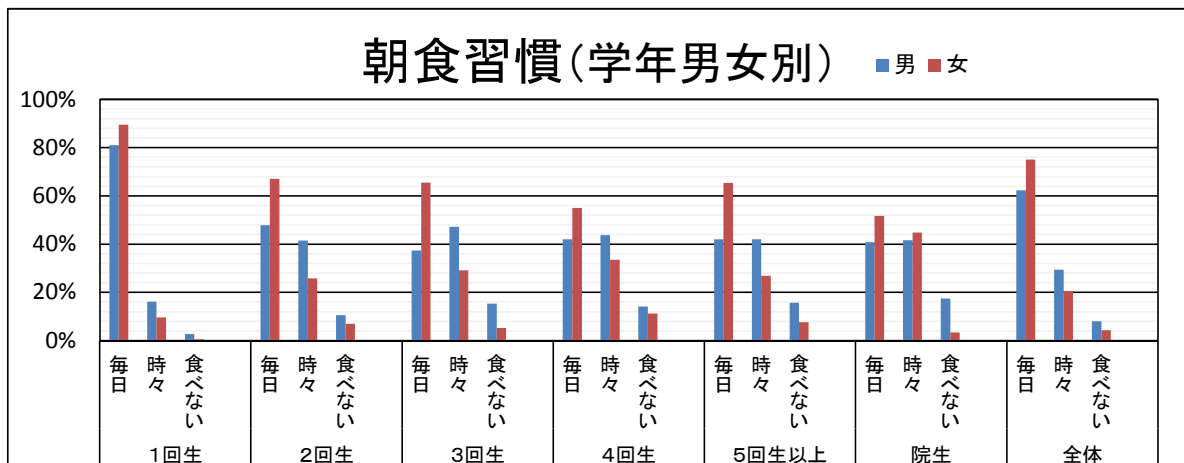
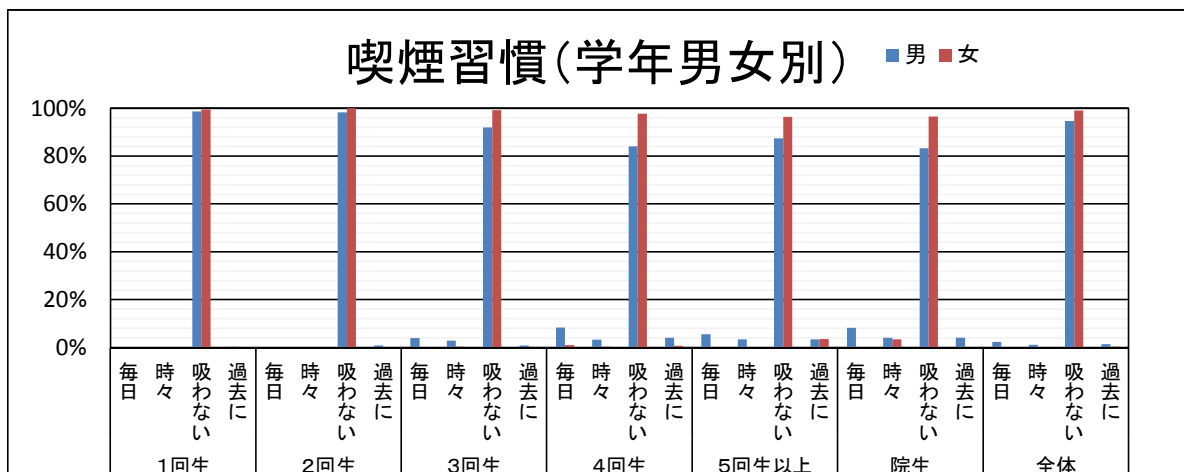


### 朝食習慣

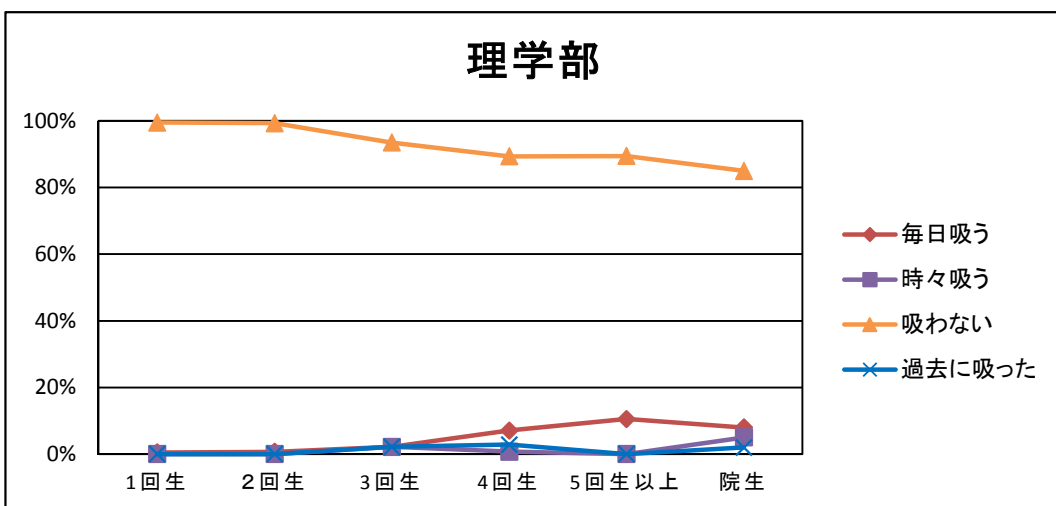
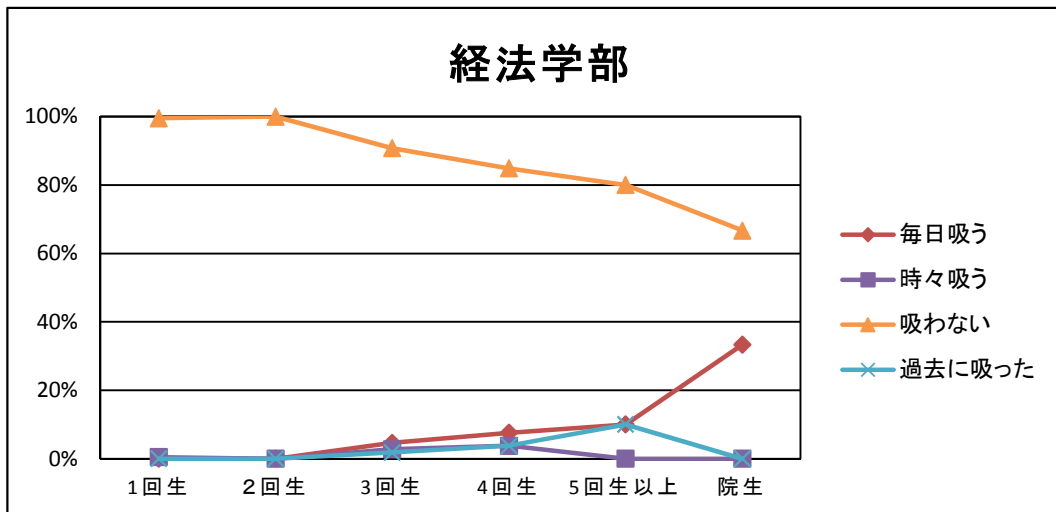
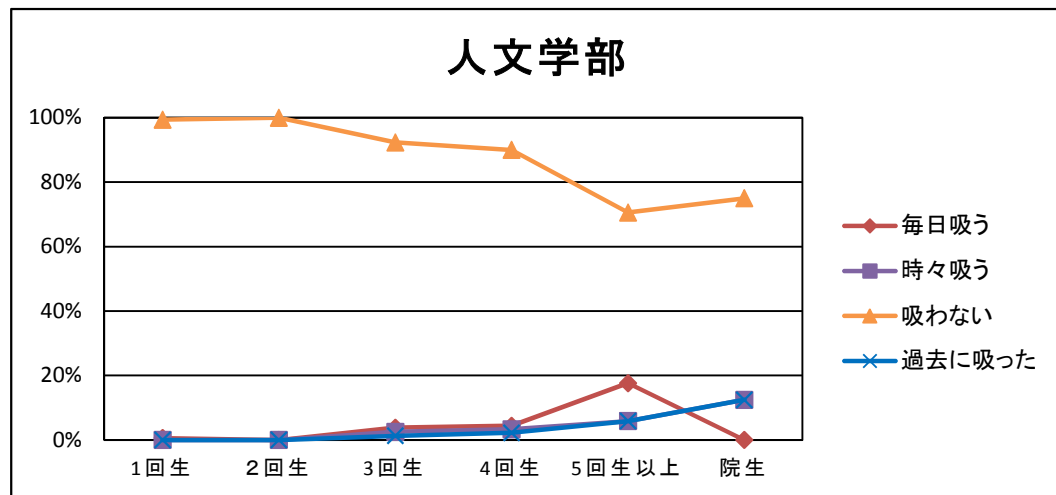
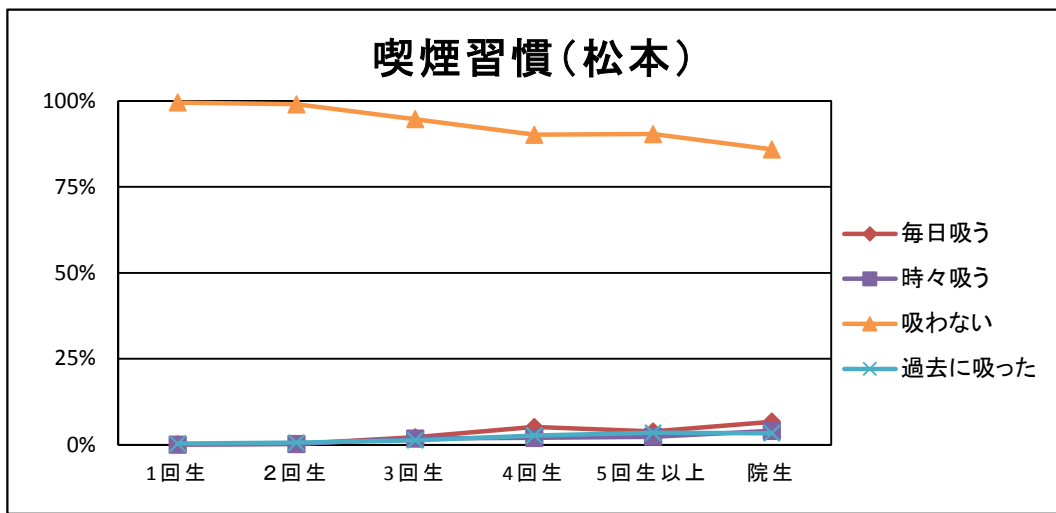


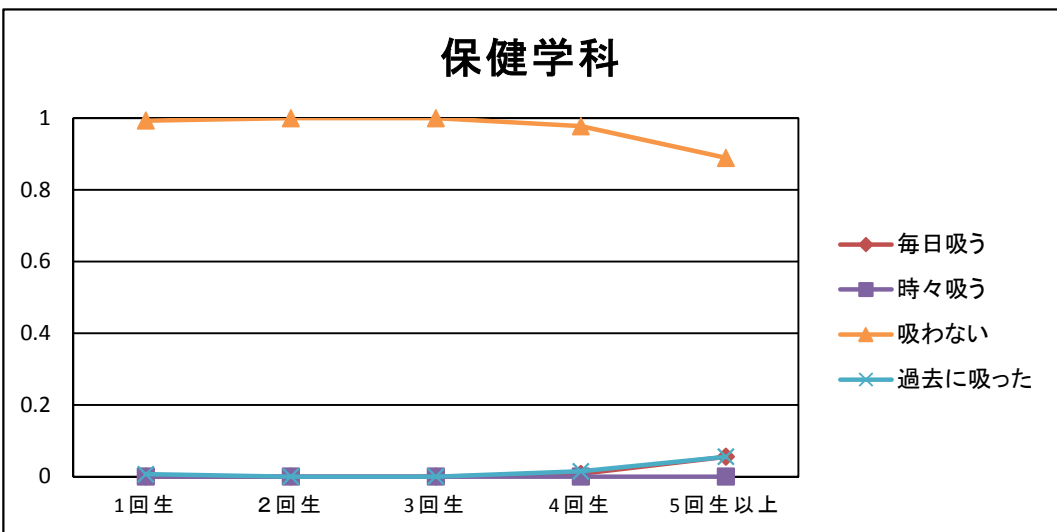
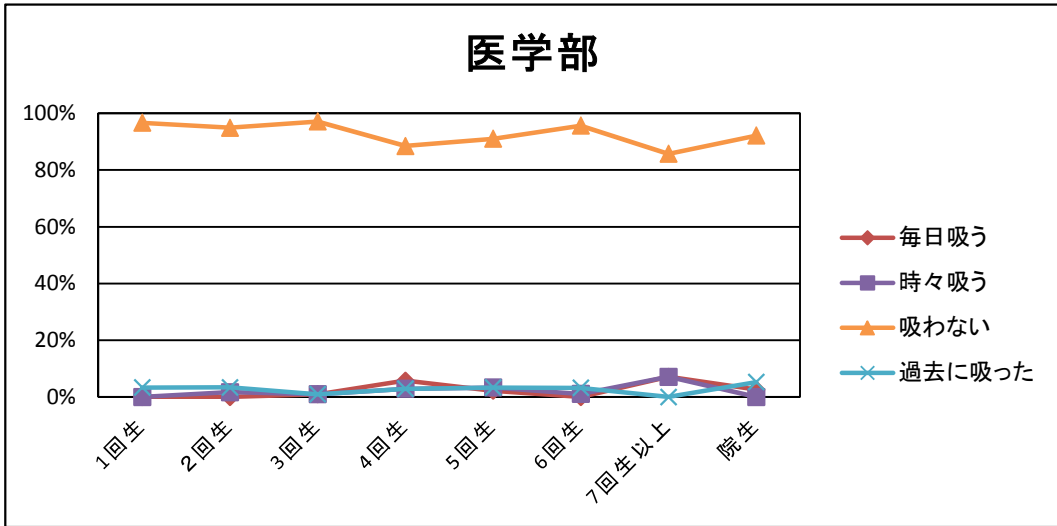
### 睡眠時間と平均睡眠時間



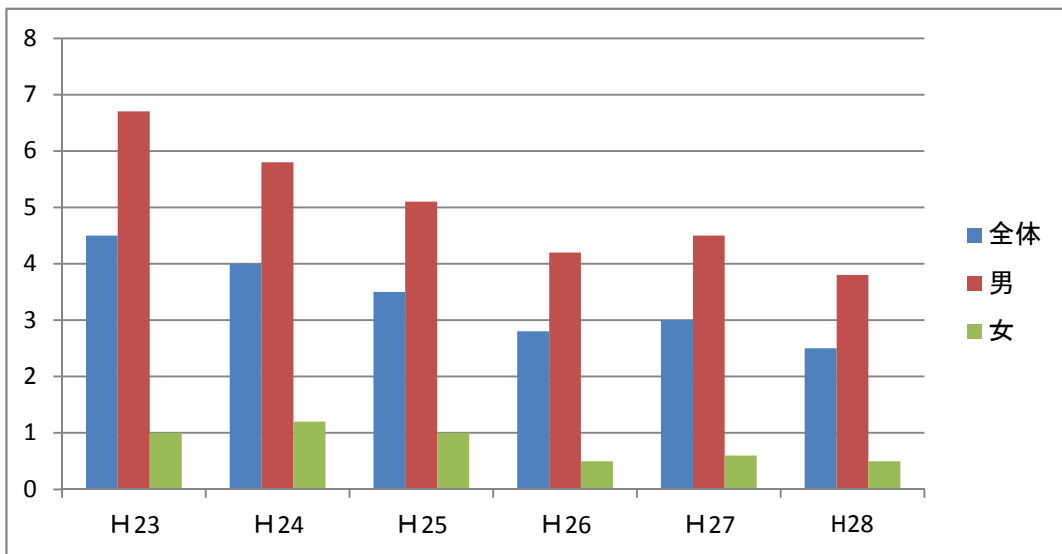




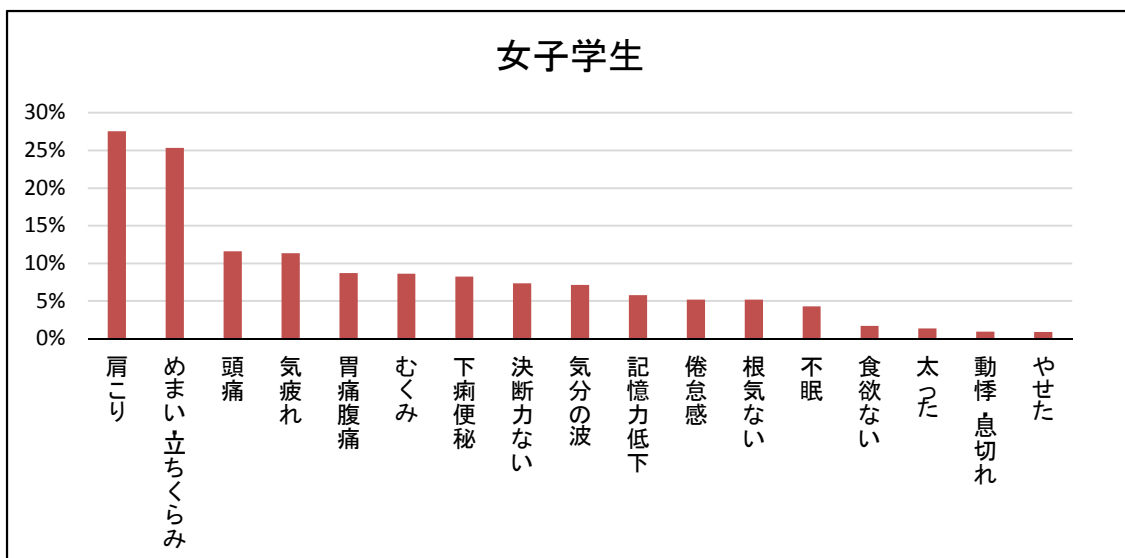
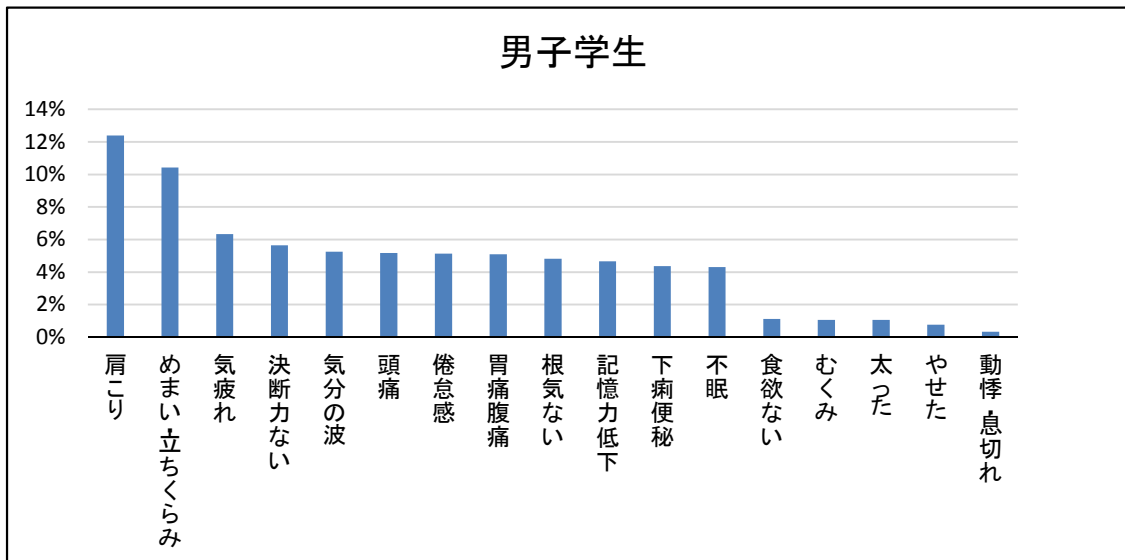
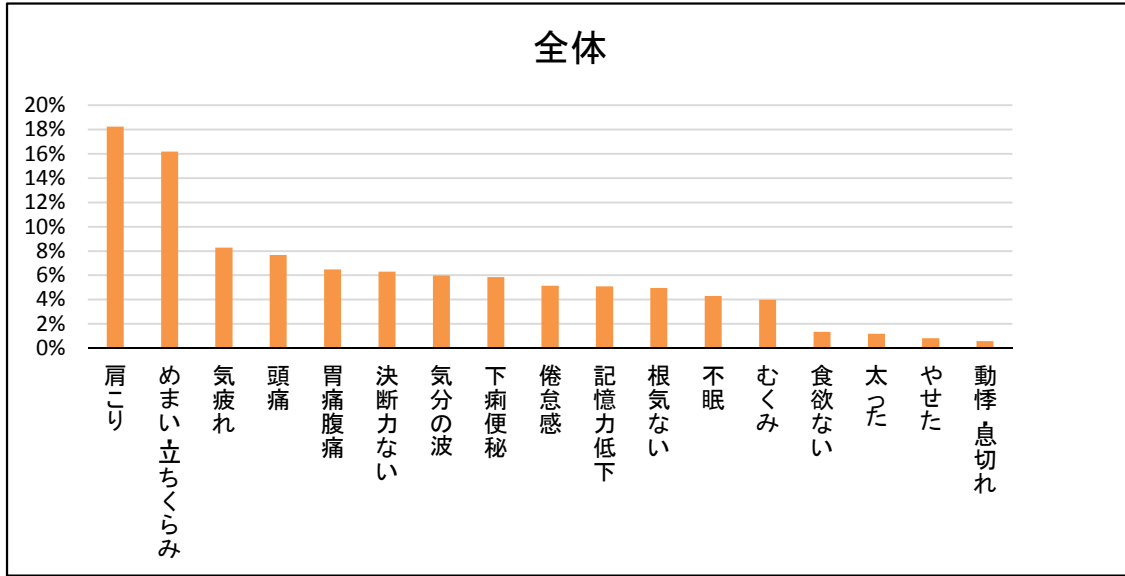




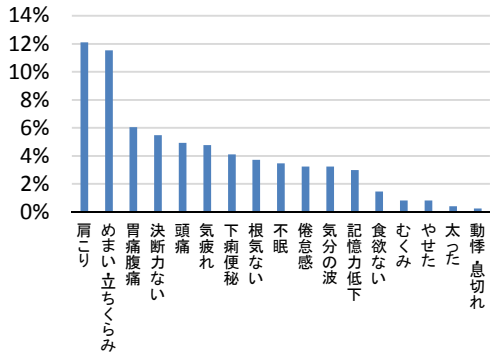
## 年度別喫煙率



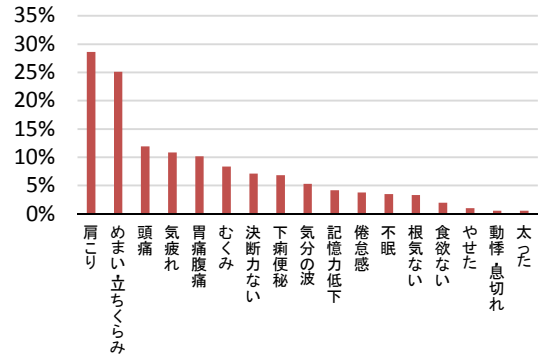
# ～ 自覚症状(松本) ～



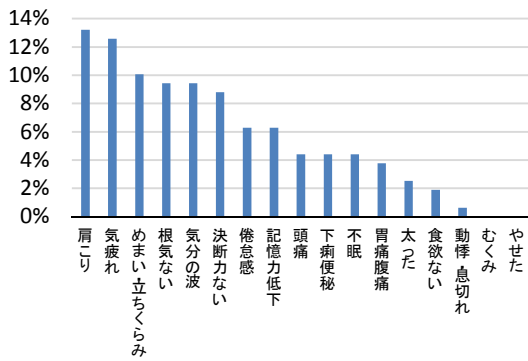
### 1年生男子



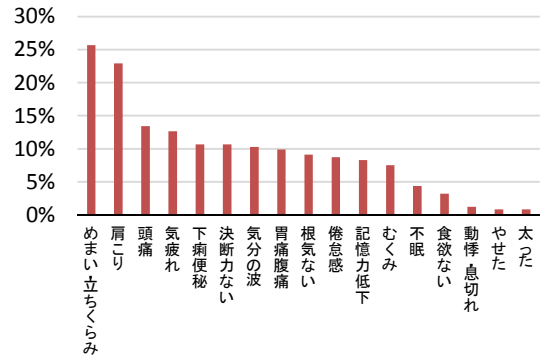
### 1年生女子



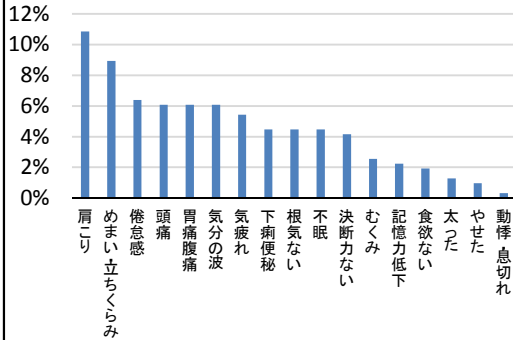
### 人文男子



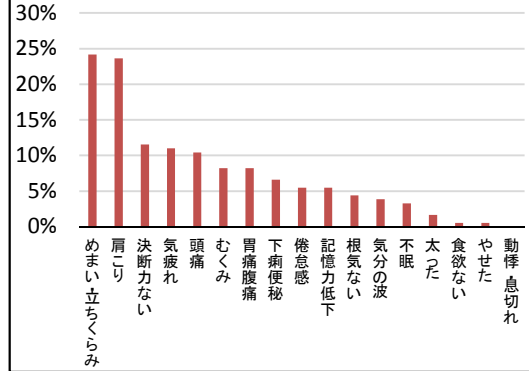
### 人文女子



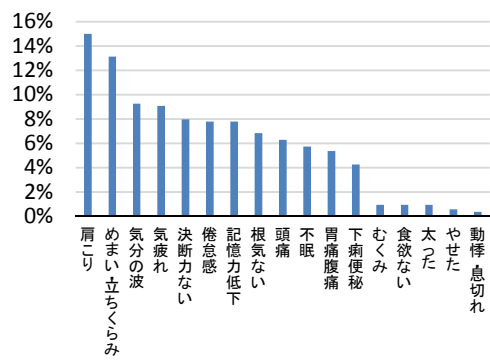
### 経法男子



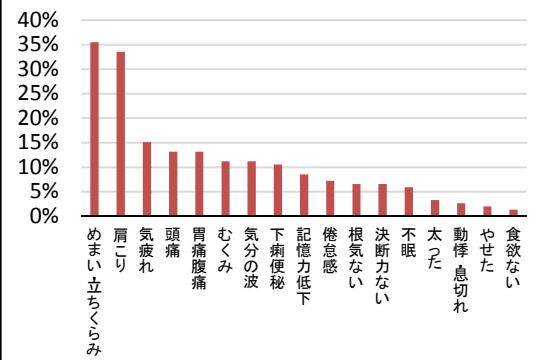
### 経法女子



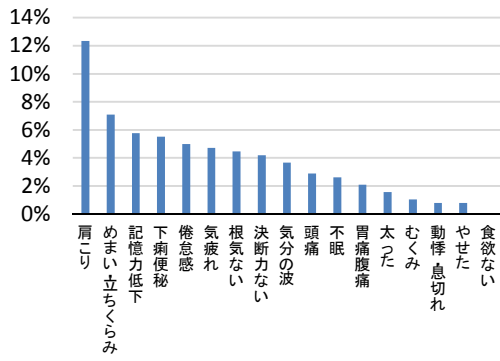
### 理学男子



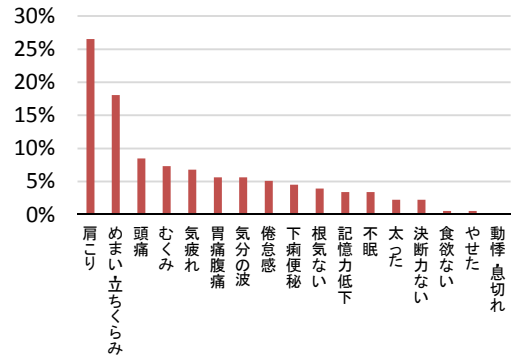
### 理学女子



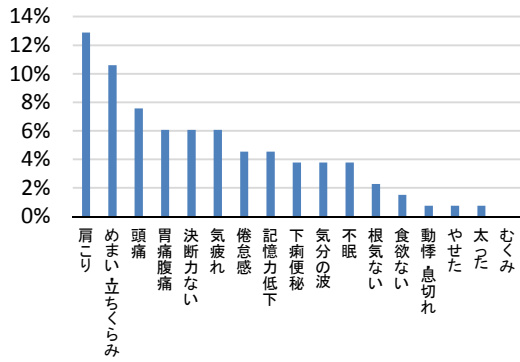
### 医学男子



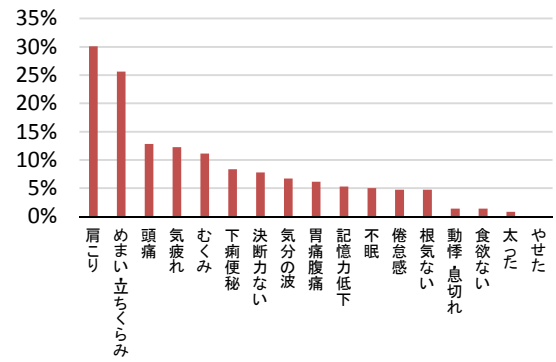
### 医学女子



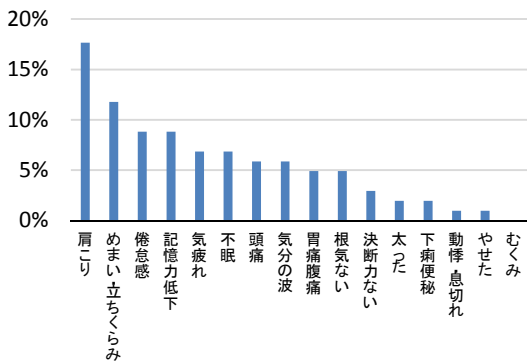
### 保健学科男子



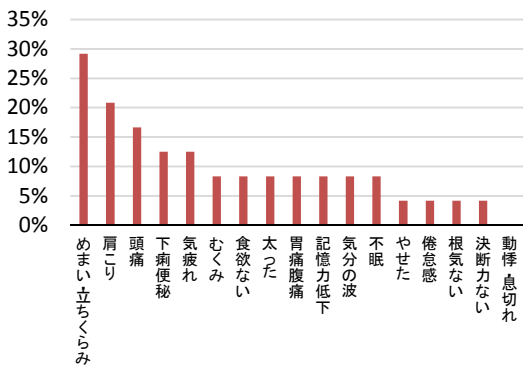
### 保健学科女子



### 院生男子



### 院生女子



## 2016年度 学生定期健康診断 精検結果

		松本	教育	工学	農学	繊維	大学院	計	
内科	健診受診者	4516	841	1468	562	864	1243	9494	
	要精検者	69	3	6		27	12	117	
	%	(1.5)	(0.4)	(0.4)		(3.1)	(1.0)	(1.2)	
	結果	健康	38	1	1		6	4	50
		要観察	11		4		8	3	26
要医療		5				2	2	9	
胸部X-P	健診受診者	4171	860	1124	362	301	1036	7854	
	要精検者	43	6	9		2	11	71	
	%	(1.0)	(0.7)	(0.8)		(0.7)	(1.1)	(0.9)	
	結果	健康	36	5	6		2	7	56
		要観察	2		3			2	7
要医療		5						5	
血压	健診受診者	4516	861	1506	565	866	1274	9588	
	要再検者	195	21	66	55	32	45	414	
	%	(4.3)	(2.4)	(4.4)	(9.7)	(3.7)	(3.5)	(4.3)	
	結果	健康	159	1	39	10	18	20	247
		要観察	2	2	2			5	11
要医療		2	2				3	7	
尿検査	健診受診者	4072	824	1438	562	857	1234	8987	
	要再検者	187	26	23	16	24	36	312	
	%	(4.6)	(3.2)	(1.6)	(2.8)	(2.8)	(2.9)	(3.5)	
	結果	健康	123	20	14	8	21	23	209
		要観察	7		3	1		4	15
要医療		10	1				1	12	

【学部生留年】

平成20～平成28年度 年度別留年率調

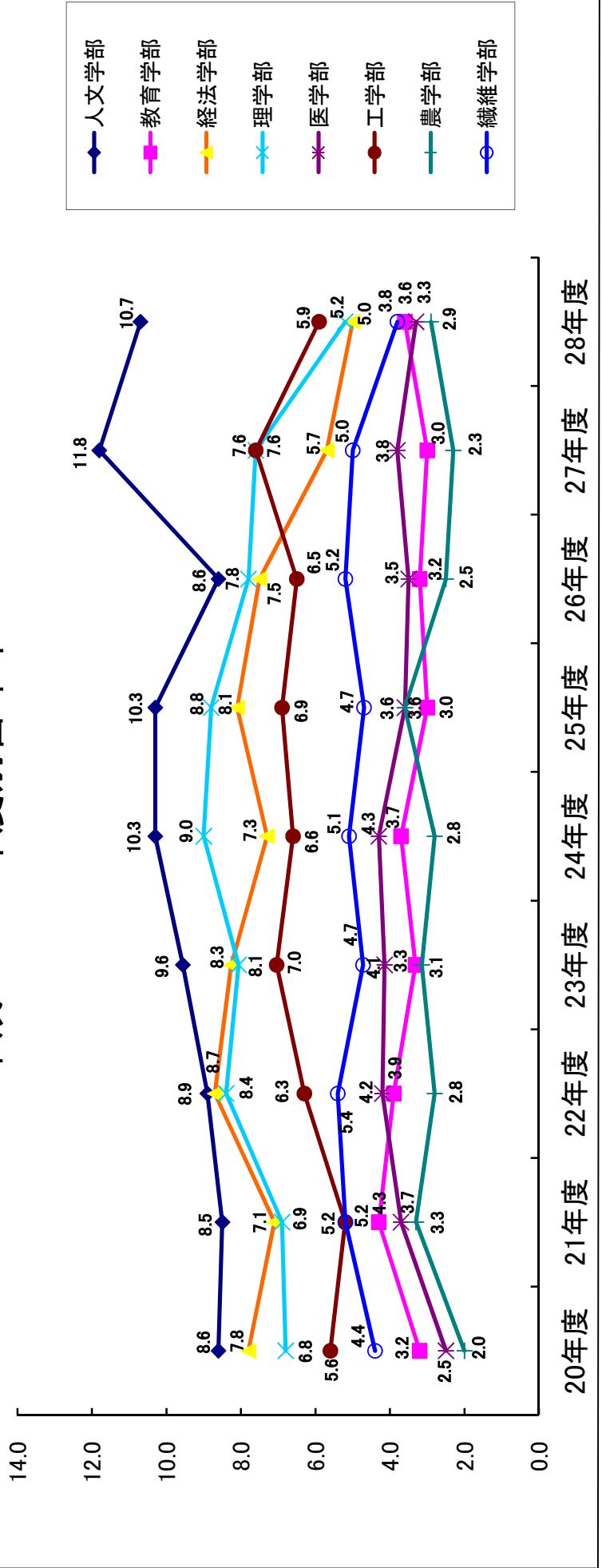
単位：％

(留年率＝各年度の在学生数に対する留年生数の割合)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人文学部	8.6	8.5	8.9	9.6	10.3	10.3	8.6	11.8	10.7
教育学部	3.2	4.3	3.9	3.3	3.7	3.0	3.2	3.0	3.6
経法学部	7.8	7.1	8.7	8.3	7.3	8.1	7.5	5.7	5.0
理学部	6.8	6.9	8.4	8.1	9.0	8.8	7.8	7.6	5.2
医学部	2.5	3.7	4.2	4.1	4.3	3.6	3.5	3.8	3.3
工学部	5.6	5.2	6.3	7.0	6.6	6.9	6.5	7.6	5.9
農学部	2.0	3.3	2.8	3.1	2.8	3.6	2.5	2.3	2.9
繊維学部	4.4	5.2	5.4	4.7	5.1	4.7	5.2	5.0	3.8
全体平均	5.0	5.4	6.0	6.0	6.0	5.9	5.5	5.8	4.9
文系平均	6.1	6.3	6.8	6.5	6.6	6.5	6.0	6.2	5.9
理系平均	5.0	5.2	5.9	6.1	6.1	6.2	5.8	6.2	4.8

※理系は医学部を除く。

平成20～28年度別留年率



【学部生休学】

平成27年度における入学年度別休学者調(その2 簡略版)

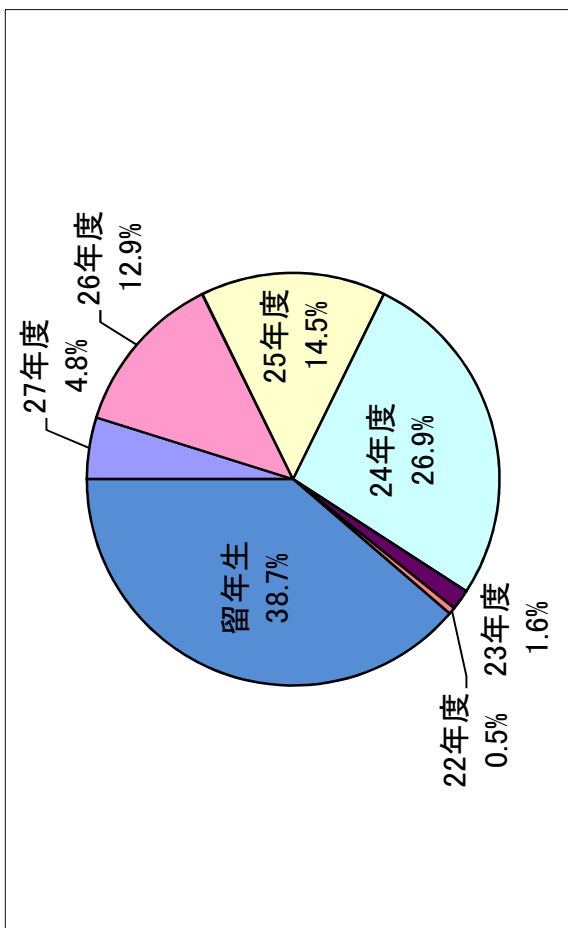
単位:人

※ 編入生は編入先の年度に含めた。

学部/入学年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	留年生	合計
人文学部	1	4	7	14	3		19	45
教育学部	1	1	4	3	1		13	22
経済学部	0	0	3	4	1		3	10
理学部	1	1	0	4			4	10
医学部医学科	0	1	4	3	1		0	12
医学部保健学科	2	7	1	3			4	17
工学部	3	4	5	14	2		18	44
農学部	0	3	2	3			0	8
繊維学部	1	3	1	2	1		11	18
計	9	24	27	50	9	1	72	186

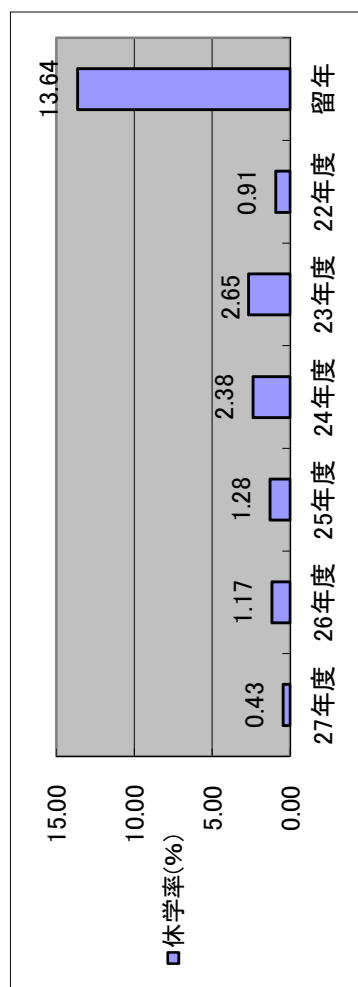
※ 各年度の右欄(太枠内)は、積極的理由群の「留学のため」で、内数を示す。

平成27年度の休学者186名の入学年度別割合



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	留年
休学者数	9	24	27	50	3	1	72
在学者数	2,069	2,047	2,105	2,104	113	110	528
休学率(%)	0.43	1.17	1.28	2.38	2.65	0.91	13.64





# 【学部生退学】

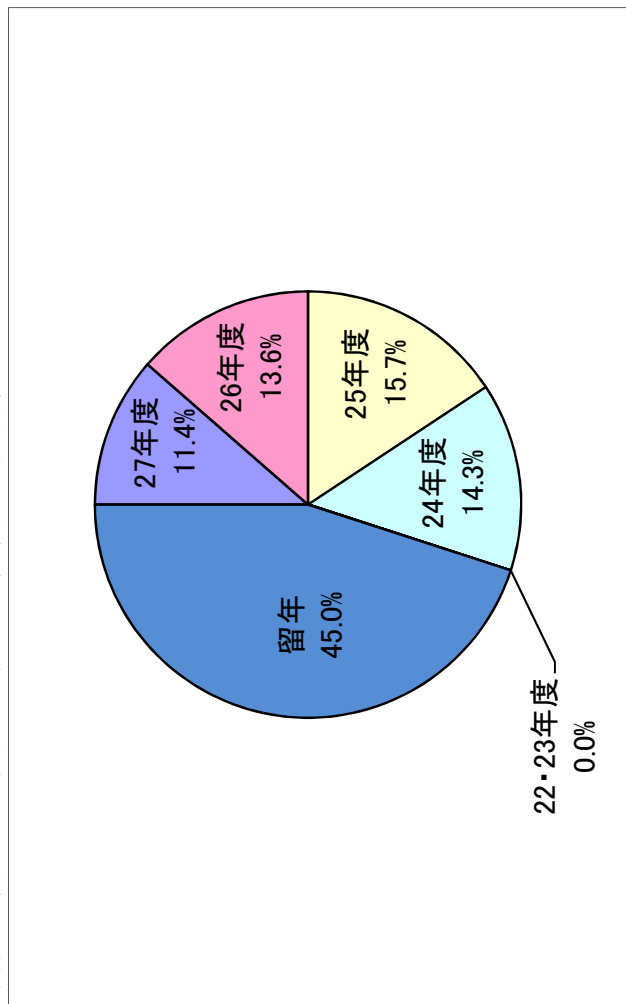
## 平成27年度における入学年度別退学者調

単位:人

※ 編入生は編入先の年度に含めた

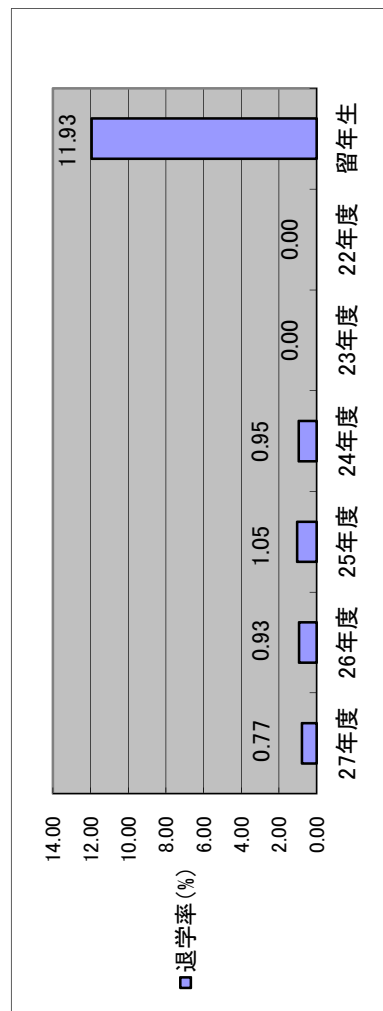
学部	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度		22年度		留年生		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
人文学部	2		2	1	3	1	3	4	3				9	5	17	9	26
教育学部				2	4			2	2				1	2	3	6	9
経済学部				1	1	2	1	3	1				6	1	7	10	12
理学部	4	1	5	3	3	4	1	5	4				13		13	28	30
医学部医学科				1	1								1		1	2	2
医学部保健学科	2	1	3	1	2		1	1	1					3	3	6	9
工学部	2		2	2	3	6	1	7	7				15	1	16	32	35
農学部	2	1	3		1		1	1					1		1	3	5
繊維学部	1		1	2	2	2	2	2	2				5		5	12	12
計	13	3	16	14	19	15	22	17	3	20			51	12	63	110	140

平成27年度の退学者140名の入学年度別割合調



各入学年度の在学者総数に占める退学者の割合

入学年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	22年度	留年	合計
退学者数	16	19	22	20	0	0	63	140
在学者数	2,069	2,047	2,105	2,104	113	110	528	9,076
退学者率(%)	0.77	0.93	1.05	0.95	0.00	0.00	11.93	1.54



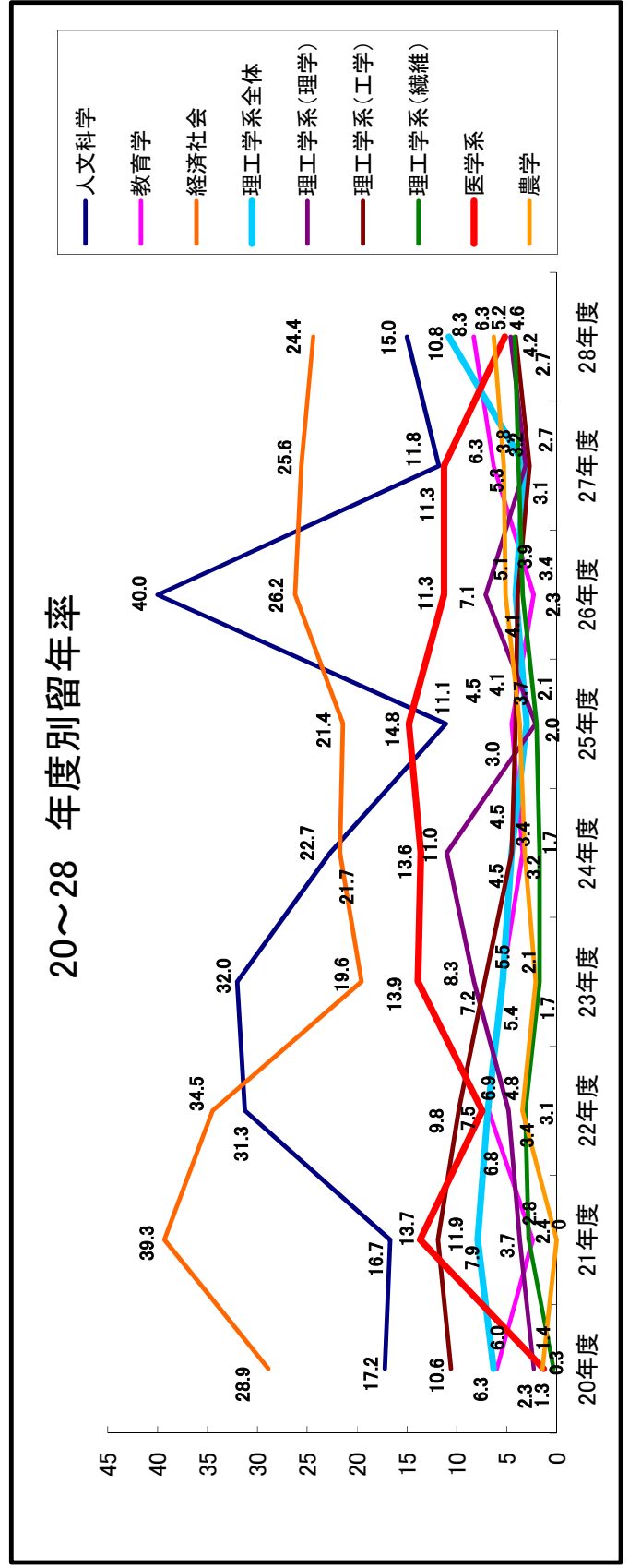
平成20～28年度 年度別留年率調<修士課程(博士前期)>

(留年率=各年度の在学生数に対する留年生数の割合)

単位:%

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人文科学	17.2	16.7	31.3	32.0	22.7	11.1	40.0	11.8	15.0
教育学	6.0	2.4	6.8	5.5	3.4	4.5	2.3	6.3	8.3
経済社会	28.9	39.3	34.5	19.6	21.7	21.4	26.2	25.6	24.4
理工学系全体	6.3	7.9	6.9	5.4	4.5	3.0	4.1	3.2	10.8
理工学系(理学)	2.3	3.7	4.8	8.3	11.0	2.1	7.1	3.1	4.6
理工学系(工学)	10.6	11.9	9.8	7.2	4.5	4.1	3.9	2.7	4.1
理工学系(繊維)	0.3	2.8	3.1	1.7	1.7	2.0	3.4	3.8	4.2
医学系	1.3	13.7	7.5	13.9	13.6	14.8	11.3	11.3	5.2
農学	1.4	0.0	3.4	2.1	3.2	3.7	5.1	5.3	6.3
総合理工学系全体									
総合理工学系(理学)									
総合理工学系(工学)									
総合理工学系(繊維)									
総合理工学系(農学)									
総合理工学系(生命医工)									
全体平均	6.5	8.4	8.1	6.4	5.5	4.2	5.3	4.9	3.9
文系平均	15.2	17.1	20.2	13.6	11.6	10.1	12.1	12.9	14.9
理系平均	5.6	7.3	6.5	5.5	4.8	3.6	4.5	3.9	2.8

※「総合理工学系」は平成28年度より新設

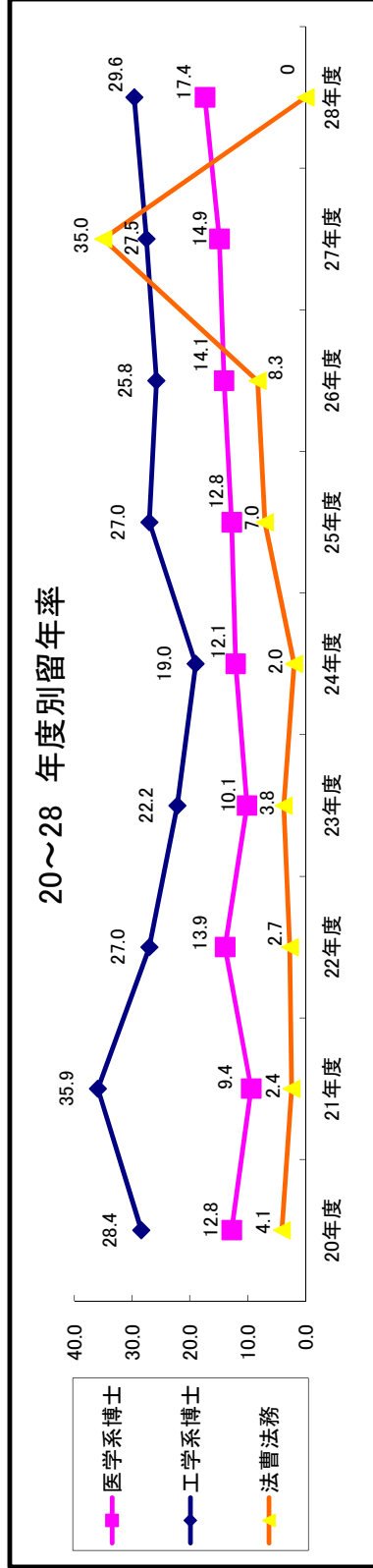


平成20～28年度 年度別留年率調＜博士課程(博士後期)・専門職＞

単位:% (留年率=各年度の在学生数に対する留年生数の割合)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
医学系博士	12.8	9.4	13.9	10.1	12.1	12.8	14.1	14.9	17.4
工学系博士	28.4	35.9	27.0	22.2	19.0	27.0	25.8	27.5	29.6
法曹法務	4.1	2.4	2.7	3.8	2.0	7.0	8.3	35.0	0.0
教育学									
全体平均	17.9	19.7	18.1	14.8	14.1	18.2	18.5	20.6	21.4

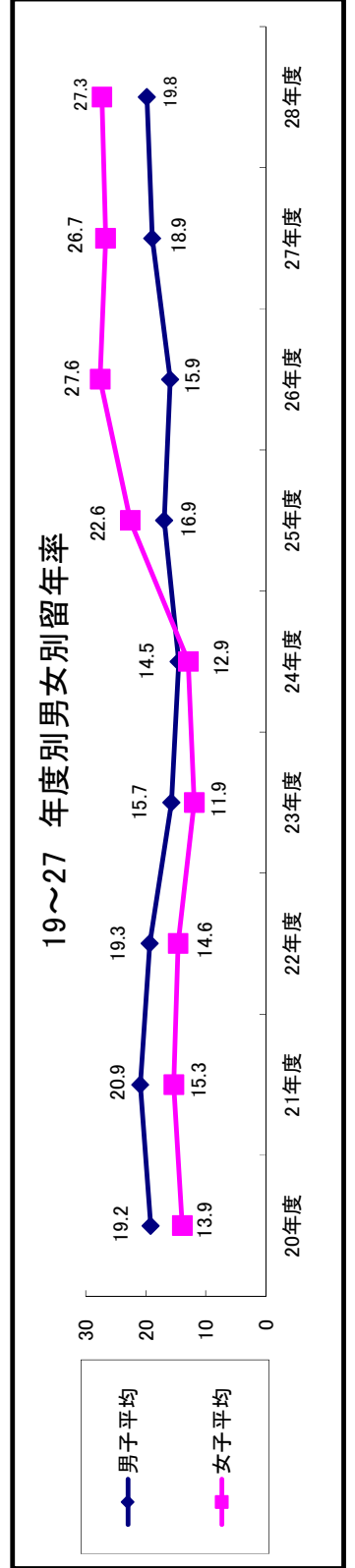
※「教育学研究科」は平成28年度より新設



平成20年度～28年度 年度別男女別留年率調＜博士課程(博士後期)・専門職＞

単位:%

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
男子平均	19.2	20.9	19.3	15.7	14.5	16.9	15.9	18.9	19.8
女子平均	13.9	15.3	14.6	11.9	12.9	22.6	27.6	26.7	27.3



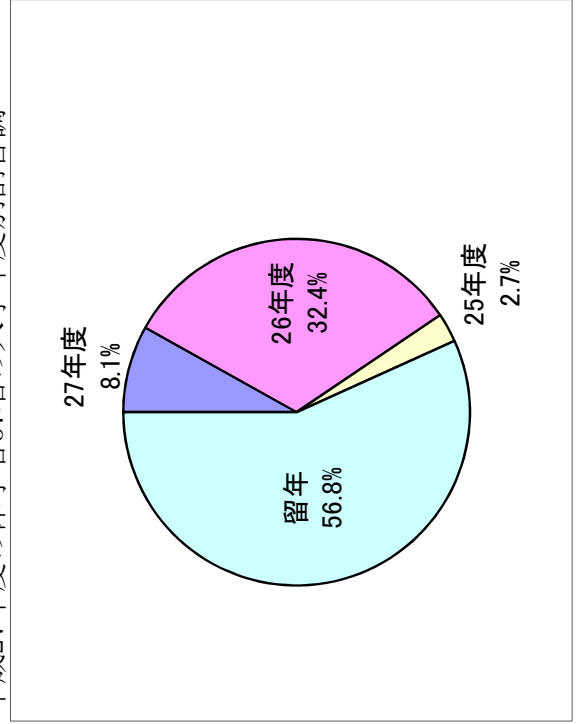
平成27年度における入学年度別休学者調<修士課程(博士前期)>(その2 簡略版)

単位:人

研究科/入学年度	27年度	26年度	25年度	留年生	合計
人文科学	1				1
教育学	2	1		2	4
経済社会				5	5
工学系理学				0	0
工学系工学				0	0
工学系繊維				0	0
理工学系理学	1			1	2
理工学系工学	1	6	1	3	11
理工学系繊維	2			4	6
医学系	1			4	5
農学	1			2	3
計	3	12	1	21	37

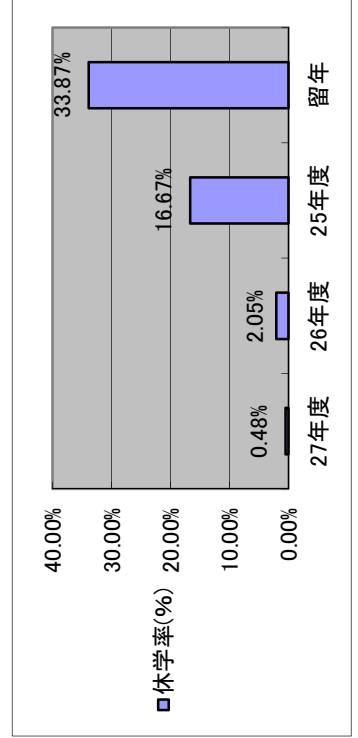
※ 各年度の右欄(大枠内)は、積極的理由群の「留学のため」で、内数を示す。

平成27年度の休学者37名の入学年度別割合調



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	27年度	26年度	25年度	留年
休学者数	3	12	1	21
在学者数	624	585	6	62
休学率(%)	0.48%	2.05%	16.67%	33.87%

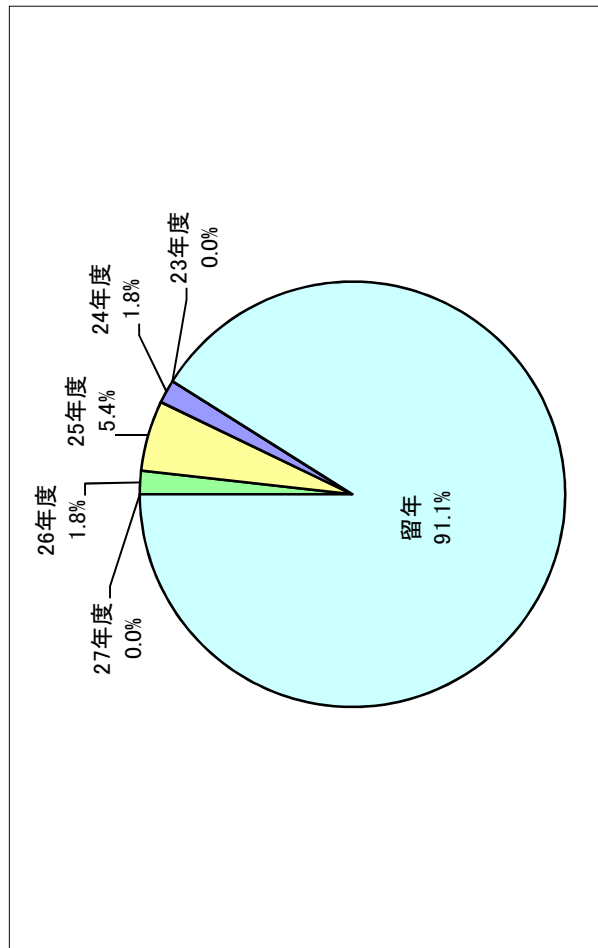


平成27年度における入学年度別休学者調査<博士課程(博士後期)・専門職>(その2 簡略版)

単位:人

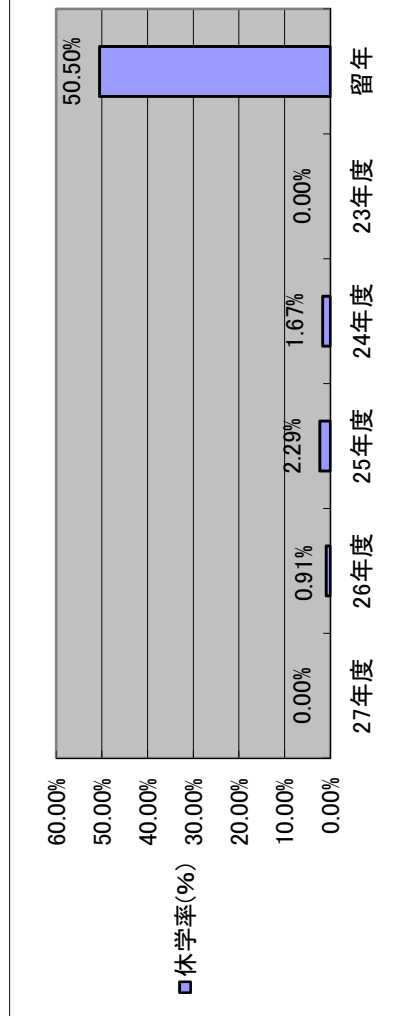
研究科/入学年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	留年生	合計
医学系(博士課程)		1	2	1		20	24
医学系(博士後期課程)						8	8
総合工学系 生命機能・フアイバー工学専攻						4	4
総合工学系 システム開発工学専攻			1			6	7
総合工学系 物質創成科学専攻						1	1
総合工学系 山岳地域環境科学専攻						7	7
総合工学系 生物・食料科学専攻						3	3
法曹法務						2	2
計	0	1	3	1	0	51	56

平成27年度の休学者56名の入学年度別割合



各年度の在学者総数に占める休学者の割合

入学年度	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度	留年	合計
休学者数	0	1	3	1	0	51	56
在学者数	88	110	131	60	1	101	491
休学率(%)	0.00%	0.91%	2.29%	1.67%	0.00%	50.50%	11.41%



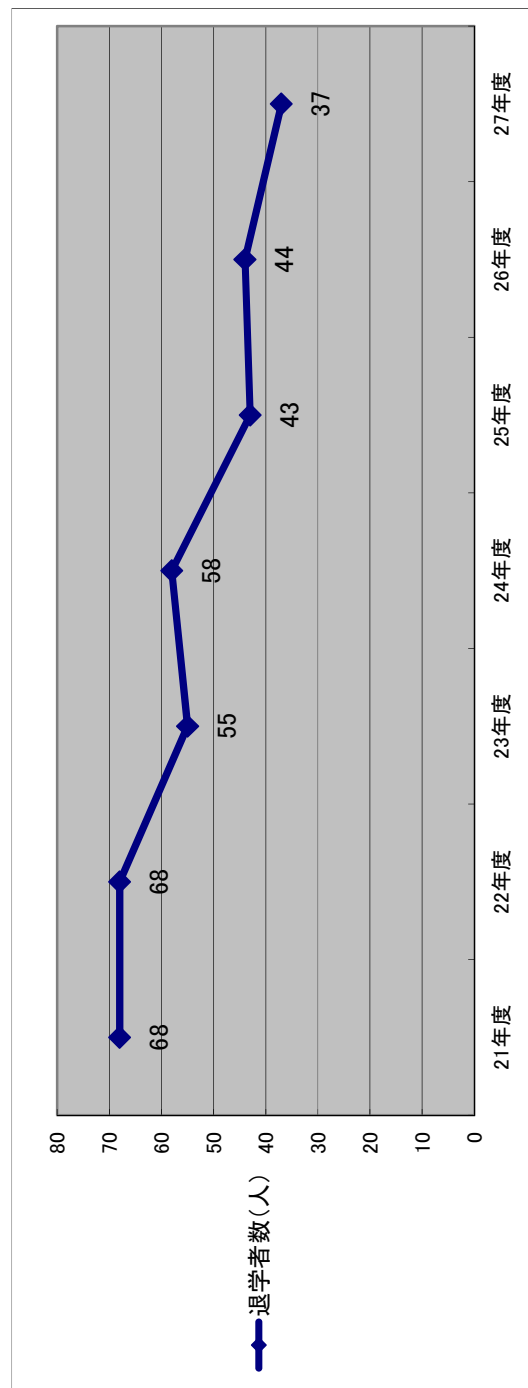
平成27年度における入学年度別退学者数<修士課程(博士前期)>

単位:人

入学年度	27年度		26年度		25年度		留年生		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
研究科										
人文科学										
教育学										
経済社会										
工学系全体	15	1	16	3	1	4	12	12	30	2
工学系理学	3		3				1	4	4	
工学系工学	8		8	2		2	5	15	15	
工学系繊維	4	1	5	1	1	2	6	11	2	13
理工学系全体	1	1	2				2	3	1	4
理学系理学										
理学系工学										
理学系繊維										
医学系										
農学										
計	16	2	18	3	1	4	15	15	34	3

平成21～27年度 退学者数の変遷<修士課程(博士前期)>

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
退学者数(人)	68	68	55	58	43	44	37



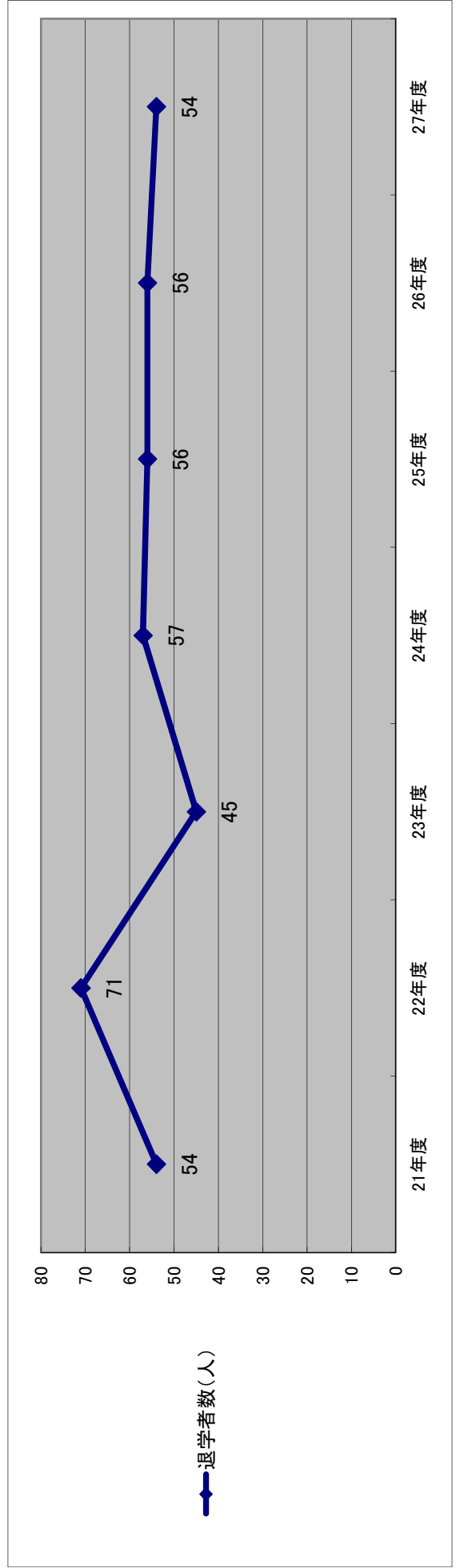
平成27年度における入学年度別退学者数<博士課程(博士後期)・専門職>

単位:人

入学年度	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度		留年生		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
研究科	1		1	1			13	8	21	1	1	7	3	10	35
医学系(博士課程)															
医学系(博士後期課程)					1	1									1
総合工学系 生命機能・ファイバー工学専攻					1	1						3		4	4
総合工学系 システム開発工学専攻					1	1								1	1
総合工学系 物質創成科学専攻					4	4	1	1			1		1	6	6
総合工学系 山岳地域環境科学専攻											2		2	2	2
総合工学系 生物・食料科学専攻	2			1	1						1		1	3	4
法曹法務												1	1		1
計	3	3	1	2	6	1	14	8	22	1	1	14	4	18	54

平成21～27年度 退学者数の変遷<博士課程(博士後期)・専門職>

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
退学者数(人)	54	71	45	57	56	56	54



## 施設利用状況（学生）

\* 人数は延人数（ ）内は%

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	189 (2.4)	23 (1.0)	21 (0.9)	23 (1.1)	58 (2.6)	314 (1.9)
	精神科	636 (8.1)	12 (0.5)	19 (0.8)	3 (0.1)	8 (0.4)	678 (4.0)
産業医	医療面談						
	産業医面談						
校医	内科	41 (0.5)	15 (0.7)				56 (0.3)
	精神科				2 (0.1)	12 (0.5)	14 (0.1)
	外科		4 (0.2)				4
	整形外科	3					3
	耳鼻科						
	眼科						
	皮膚科	30 (0.4)					30 (0.2)
	婦人科	1					1
他医への紹介		128 (1.6)	17 (0.7)	54 (2.4)	78 (3.7)	7 (0.3)	284 (1.7)
臨時健康診断		62 (0.8)		1			63 (0.4)
特別定期健康診断		67 (0.8)	18 (0.8)	157 (6.9)		382 (17.1)	624 (3.7)
検査	身体計測	90 (1.1)	1	24 (1.1)	7 (0.3)	82 (3.7)	204 (1.2)
	血圧測定	169 (2.1)	2 (0.1)	50 (2.2)	56 (2.7)	52 (2.3)	329 (2.0)
	血液・採血	60 (0.8)	1			201 (9.0)	262 (1.6)
	尿	357 (4.5)	30 (1.3)	135 (5.9)	27 (1.3)	301 (13.4)	850 (5.1)
	視聴力・色覚	24 (0.3)	24 (1.0)	22 (1.0)	25 (1.2)	31 (1.4)	126 (0.7)
	心電図	47 (0.6)		1			48 (0.3)
処置	外傷	156 (2.0)	62 (2.7)	55 (2.4)	42 (2.0)	46 (2.1)	361 (2.1)
	打撲・捻挫	75 (1.0)	37 (1.6)	37 (1.6)	9 (0.4)	29 (1.3)	187 (1.1)
	熱傷	13 (0.2)	3 (0.1)	15 (0.7)		8 (0.4)	39 (0.2)
	咬刺症	32 (0.4)	4 (0.2)	15 (0.7)	16 (0.8)	4 (0.2)	71 (0.4)
	皮膚疾患	30 (0.4)	2 (0.1)	6 (0.3)	2 (0.1)	12 (0.5)	52 (0.3)
	その他	77 (1.0)	1	9 (0.4)	17 (0.8)	31 (1.4)	135 (0.8)
	看護	投薬	117 (1.5)	19 (0.8)	29 (1.3)	4 (0.2)	8 (0.4)
	健康相談	1888 (23.9)	546 (23.7)	419 (18.4)	434 (20.5)	260 (11.6)	3547 (21.1)
	栄養指導	1	2 (0.1)	9 (0.4)	20 (0.9)		32 (0.2)
	労働衛生相談						
	健康教室	6 (0.1)			4 (0.2)		10 (0.1)
	カウンセリング 補助	136 (1.7)	42 (1.8)	62 (2.7)	113 (5.3)	31 (1.4)	384 (2.3)
	その他	1520 (19.3)	3 (0.1)	84 (3.7)	52 (2.5)	31 (1.4)	1690 (10.1)
カウンセリング	常勤カウンセラー	949 (12.0)	355 (15.4)	637 (28.0)	881 (41.7)	530 (23.7)	3352 (19.9)
	非常勤カウンセラー	148 (1.9)	70 (3.0)				218 (1.3)
自主利用	身体計測	372 (4.7)	321 (13.9)	132 (5.8)	203 (9.6)	52 (2.3)	1080 (6.4)
	血圧測定	263 (3.3)	325 (14.1)	44 (1.9)	13 (0.6)	11 (0.5)	656 (3.9)
	休養	147 (1.9)	78 (3.4)	101 (4.4)	38 (1.8)	25 (1.1)	389 (2.3)
	その他	16 (0.2)	277 (12.0)	120 (5.3)	42 (2.0)	1	456 (2.7)
健康診断証明書		36 (0.5)	8 (0.3)	17 (0.7)	2 (0.1)	25 (1.1)	88 (0.5)
計		7886 (100.0)	2302 (100.0)	2275 (100.0)	2113 (100.0)	2238 (100.0)	16814 (100.0)



## 施設利用状況（職員）

\* 人数は延人数（ ）内は%

業務内容		松本	教育	工学	農学	繊維	合計
医師	内科	63 (1.8)	11 (1.2)	8 (1.4)	7 (2.8)	16 (3.7)	105 (1.9)
	精神科	54 (1.6)	7 (0.8)	7 (1.2)	1 (0.4)	8 (1.9)	77 (1.4)
産業医	医療面談	10 (0.3)	3 (0.3)		5 (2.0)	4 (0.9)	22 (0.4)
	産業医面談	117 (3.4)	3 (0.3)	1 (0.2)	3 (1.2)	11 (2.6)	135 (2.4)
校医	内科	10 (0.3)	3 (0.3)			1 (0.2)	14 (0.3)
	精神科						
	外科						
	整形外科	1					1
	耳鼻科						
	眼科						
	皮膚科	8 (0.2)					8 (0.1)
	婦人科						
他医への紹介		34 (1.0)	16 (1.7)	3 (0.5)	14 (5.7)	1 (0.2)	68 (1.2)
臨時健康診断		8 (0.2)					8 (0.1)
特別定期健康診断		18 (0.5)	3 (0.3)	80 (13.9)		90 (21.0)	191 (3.4)
検査	身体計測	32 (0.9)		7 (1.2)		20 (4.7)	59 (1.1)
	血圧測定	30 (0.9)	1 (0.1)	117 (20.4)	1 (0.4)	3 (0.7)	152 (2.7)
	血液・採血	14 (0.4)				27 (6.3)	41 (0.7)
	尿	8 (0.2)	1 (0.1)	2 (0.3)		43 (10.0)	54 (1.0)
	視聴力・色覚		1 (0.1)	1 (0.2)			2
	心電図	10 (0.3)					10 (0.2)
処置	外傷	18 (0.5)	13 (1.4)	12 (2.1)	18 (7.3)	7 (1.6)	68 (1.2)
	打撲・捻挫	9 (0.3)	10 (1.1)	9 (1.6)	3 (1.2)	3 (0.7)	34 (0.6)
	熱傷	2 (0.1)		2 (0.3)	2 (0.8)	2 (0.5)	8 (0.1)
	咬刺症	4 (0.1)	3 (0.3)	1 (0.2)	2 (0.8)	1 (0.2)	11 (0.2)
	皮膚疾患	8 (0.2)		3 (0.5)	1 (0.4)	2 (0.5)	14 (0.3)
	その他	17 (0.5)	2 (0.2)	7 (1.2)	11 (4.5)	21 (4.9)	58 (1.0)
看護	投薬	90 (2.6)	18 (2.0)	16 (2.8)	13 (5.3)	19 (4.4)	156 (2.8)
	健康相談	302 (8.8)	250 (27.2)	92 (16.0)	78 (31.7)	59 (13.8)	781 (14.0)
	栄養指導		1 (0.1)	3 (0.5)		1 (0.2)	5 (0.1)
	労働衛生相談	46 (1.3)		1 (0.2)	27 (11.0)	6 (1.4)	80 (1.4)
	健康教室	792 (23.1)	28 (3.0)	13 (2.3)	3 (1.2)	5 (1.2)	841 (15.0)
	カウンセリング 補助	7 (0.2)	3 (0.3)	6 (1.0)	4 (1.6)	4 (0.9)	24 (0.4)
	その他	1574 (45.9)		13 (2.3)	15 (6.1)	9 (2.1)	1611 (28.8)
カウンセリング	常勤カウンセラー	2 (0.1)	4 (0.4)	76 (13.2)	8 (3.3)	6 (1.4)	96 (1.7)
	非常勤カウンセラー	63 (1.8)					63 (1.1)
自主利用	身体計測	13 (0.4)	177 (19.2)	8 (1.4)	12 (4.9)	3 (0.7)	213 (3.8)
	血圧測定	22 (0.6)	183 (19.9)	37 (6.4)	7 (2.8)	50 (11.7)	299 (5.3)
	休養	39 (1.1)	18 (2.0)	37 (6.4)		6 (1.4)	100 (1.8)
	その他	1	161 (17.5)	12 (2.1)	11 (4.5)		185 (3.3)
健康診断証明書		2 (0.1)					2
計		3428 (100.0)	920 (100.0)	574 (100.0)	246 (100.0)	428 (100.0)	5596 (100.0)

平成29年7月

編集・発行 信州大学総合健康安全センター

〒390-8621

長野県松本市旭3-1-1

電話 (0263) 37-2157・3516

FAX (0263) 37-3514